ミュンヘンへの道

チャンスがあって、34年前のベルリンオリンピックのハンドボールのことを伝えている記録を見る機会に恵まれた。

ハンドボールがこれまで唯一度行なわれているオリンピックである。

ミュンヘンとは同じ国のドイツで行なわれている。このことは決っして、奇縁といったタチのものではない。ドイツでいかにハンドボールがポピューラーなものになっているかを示すものとしてうけとることができよう。

この大会の参加国はドイツ、オーストリー、ハンガリー、スイス、ルーマニア、北米合衆国の六ケ国であったのであるから正に今昔の感にたえない。第7回の世界選手権には、とにかく28ケ国がエントリーしているのであり、オリンピックとなれば数が増えこそすれ、へることはないであろう。となれば、36年間に約五倍の国が参加するという大きな飛躍をハンドボール界はとげたことになる。

日本の発展とて同じことが云えよう。とにかくハンドボール界は内外ともに大きく発展してきているのは否めない事実である。

しかし、他競技と比べた場合には、まだまだ、はなはだマイナーなスポーツである。これは単に国内だけでなく、諸外国でも事情に多少の差こそあれ、国内第一のスポーツになっている国はいくつもありはしない。

日本でも、オリンピックを機会に大飛躍をさせようとしているが、他の諸国でも同様であるそこで何がそのための近道かと云えば、いいプレー、いいゲームをするにつきると思う。

いいプレーをし、いいゲームをし、万人にハンドボールというのはなるほどすばらしいスポーツだと納得させることが、日本のハンドボール界にとっても、世界のハンドボール界にとっても必要なことである。

オリンピックに出場するであろう選手はもとより、国内のありとあらゆる階層の選手がより高度のプレーをめざし、日夜努力することがハンドボールを大きく躍進させるための基礎固めになろう。

このチャンスを生かすも殺すもハンドボールに関係している全員の努力にかかっているといっても過言ではないであろう。

読者のみなさんも何らかの形でこのチャンスに力をつくしてほしいものと思う。（F）

時　評

このところちょっと陽かげにまわっていた女子界だが、いよいよ来年は6年ぶりに世界選手権が開かれる。

日本の女子に寄せられる評価は国際的にもかなり高いようで期待も大きいわけだが、その強化策については、日本協会も今年度内にいちど優秀選手を一堂に集めて強化合宿を行なう、という程度でそのほかのプランはいぜん白紙のまま。

それというのもデリケートな女性心理も手伝って女子チームは男子と同じ強化策を採れぬ特有の問題があり、担当の強化指導部としても対策を決めかねている状態だからだ。

女子の有力チームの指導者の一部は、男子の頂点強化対策に比べて、あまりにも女子が置き去りにされているといった不満もあるといわれるが、はたして優秀選手を集めた数次の合宿から代表選手を厳選するシステムが得策かどうか。

日本協会内部には単独チームのせりあいを重ね、その最強チームを母体に〝全日本〟を編成するのが最良の方法という意見がむしろ強い。そこで時評子は思い切った選抜方式を採ってみたらと提案したい。

それは新シーズン（46年4月）にスタートさせる「世界選手権代表決定戦」（仮称）だ。

この大会にはあらかじめ第1シードとして日本協会推せん4チーム、第2シードとして全日本実連、全日本学連から各4チームの推せんを受ける。

予選は最低4段階を考える。第一次予選は高校を含めあらゆる女子チームのエントリーを受けつけ、トーナメントの結果ベストフォアに第二次予選出場資格を与える。

第二次予選から第2シード8チームが加わりベストフォアを決める。

第三次予選はその4者に第1シードが加って8強の争覇となる。三たびベストフォアを残しいよいよ最終予選だ。ここでそれまでに失格したチームの中から有力選手12〜15名を選んで1チームを編成する。つまり最終段階は5チームによるリーグ戦（5日間）になるわけだ。

そしてその優勝チームの監督が世界選手権代表の監督に、選手は代表チームの母体とすることを承認するというシステムである。4月の第一次予選に始って9月には最終リーグが組めるように企る。読者諸兄姉の御意見はいかがなものだろう。（X）

「ハンドボール」8月号（第78号）目次

表紙写真 日韓大学交流第1戦、日体大─成均館大学　撮影　光島磯雄

成均館大（韓国）勝ちこす

日本側　日体大、関東学生が2勝

第4回日・韓国際親善学生大会

韓国学生界最強の成均館大学（李京求団長、崔壬煥監督ら一行17人）を迎えての第4回日本韓国国際親善学生ハンドボール大会は7月3日東京における日体大との一戦を皮切りに9日の関東学生選抜戦まで4都市で5試合が行われた。

成均館大の気力にあふれた攻守は、予想どおり韓国ハンドボール界の急速なレベルアップを裏付けるに充分で、日本側は2勝をあげたにとどまり、初の負けこし（3敗）となった（4回の通算成績日本側の23戦16勝6敗1分）

成均館大のプレーだけで韓国球界の水準を推測するのは不充分としても、すでに同国ナショナルチームがオリンピックに備えて強化を進めているという情報も得、日本球界も盟友・韓国の成長は今後大いに注目しなければなるまい。

なお、一行は7月11日午後4時羽田発の大韓航空機で帰国した。

対戦成績

①日体大　15—14　成均館大
②成均館大　17—16　関西学生
③成均館大　25—12　東北学生
④成均館大　25—16　東海学生
⑤関東学生　19—14　成均館大

九たび同点の激戦

日体大　辛勝

第1戦・日体大戦は7月3日午後6時から東京の駒沢屋内球技場に四千人のファンを集めて行われた。審判＝佐野和夫、斎藤和夫

日体大　15（9—8　6—6）14　成均館大

得	【日体】		【成均】	得
0	大村	GK	李章宰	0
0	本田	GK		
4	斎藤	FP	章戴奉	1
1	亀谷	FP	孫泰烈	0
2	安達	FP	康忠根	1
0	田中	FP	宋錫仁	2
4	氷海	FP	金秉達	6
0	池田	FP	朴烔淳	4
2	高橋	FP	奇忠植	0
2	池本	FP	曺正奎	0
15	(1)	7MT	(1)	14

後記　杉山　茂

○……両国学生チャンピオンの対戦とあって場内は満員。

その熱気が日体大を浮き足だたせ立ちあがりから成均館大に押しまくられた。

成均館大は開始40秒、朴が日体大の激しい当りをかわしながらチャンスをつかみ康へ好パス、先取点をあげた。つづいて2分10秒と4分、金（秉）の鮮やかなポストプレーで3—0とリード。日体大ベンチはGKを大村から本田に代える。完全に受け身だ。

○……7分5秒高橋の好技で1—3、そのあとすかさず斎藤、安達がゴールして10分3—3に追いついた。それからは激しい当りをともなって一進一退。成均館大が朴のすばらしいジャンプショットとポストプレーで得点すれば、日体大も斎藤が激しいマークにあいながらゲット、六たび同点をくり返し、日体大は27分30秒亀谷の巧いプレーで始めてリード（9—8）を奪った。

○……後半に入ってすぐ成均館大は反撃、2分章、9分金（秉）で逆転した。自信たっぷりの試合展開だ。13分日体大は氷海のミドルで10—10。重苦しい雰囲気に包まれ、互いに主導権をとろうと狙うがかえって攻撃がまとまらず8分間ノーゴール。21分速攻から金（秉）が決め11—10。このプレーを境にテンポは速くなったがラフなプレーも目立ちはじめる。

○……日体大は22分氷海で11—11と九たび目のタイにしてから波にのった。速攻から高橋、ミドルで氷海と30秒おきに加点、24分斎藤のロングで14—11。

成均館大にとって悔やまれるのは高橋と斎藤の失点場面だろう。高橋のプレーは朴が相手ゴールで倒れて帰陣できぬスキをつかれ、斎藤のゴールは記者席からの感じではアフター・ホイッスル。

○……優位の日体大は25分1点を返されたが慌てず27分氷海が決めて3点差をキープ。興奮気味の成均館大はこのあと主将の宋がすさまじいばかりのプレーを見せて追いあげ、28分捨て身のシュートで13—15、さらに29分10秒、相手ディフェンスの頭上をとびこさんばかりの勢いをつけたジャンプショットは不成功に終ったが7MTを得て14—15。残り45秒、日体大のシュートを防いで場内騒然たるな

かで最後の反撃を見せたが金(秉)のシュートはGKの正面にとび万事休した。

〇……日体大は最後まで持ち前の歯切れのよいプレーを発揮できずわずかに後半氷海のミドル攻撃が成功して辛くも勝利を握った。強く激しい相手ディフェンスの当りを終始かいくぐっていた高橋の機敏な動きが斎藤・氷海のシュート力を活かすことにつながった。また成均館大の空間プレーを巧みに封じたのも勝因の一つであろう。

成均館大では宋、金(秉)、朴の力と技が目立ち、特に金(秉)の判断力はすばらしい。また、GK李がしばしば果敢な飛び出しでピンチを切り抜けていたのが注目された。両校の対戦は昨夏以来三たび1点差に終った。(NHK運動部)

成均館、後半逆転に成功

第2戦・関西学生選抜との試合は7月5日午後3時から大阪市中央体育館に約二千人のファンを集めて行なわれた。審判=光島磯雄、東嘉伸

成均館大 17 (12—6, 5—10) 16 関西学生選抜

得	〔成均館〕		〔関西選抜〕	得
0	李章宰	GK	入江(関大)	0
0	金永年	GK	岩田(同大)	0
1	章載奉	FP	土田(桃山)	4
0	孫泰烈	FP	脇田(大経大)	1
1	康忠根	FP	清水(大経大)	0
4	宋錫仁	FP	小林(大外大)	1
4	金乗達	FP	中野(同大)	1
0	曺正奎	FP	富田(同大)	0
0	安義洙	FP	松井(同大)	0
7	朴烔淳	FP	宮松(関大)	4
0	田相薫	FP	川上(関学)	5
0	奇忠植	FP	藤井(大体大)	0
17	(0)	7MT	(0)	16

後記

佐藤吉平

前半はセットプレーで好調に関西選抜が攻めた。セットプレーが巧くあたり、韓国のディフェンス陣をかきまわし、シュートも良く決まり、関西選抜が10—5とリードした。

後半5点をリードされた成均館大はそのもち前の根性を見せ、得意のスカイプレーを随所に見せ、曺これを宋、朴らが好ジャンプ、好シュートで適格にゴールし、その差をジリジリとつめた。

この間、関西選抜は前半に見せたセットオフェンスのさえが見られず、いたずらに差をつめられるだけであった。

後半中頃同点になってからは関西選抜もおちつきをとりもどし、一点を争うシーソーゲームになったが、結局終了直前にリードを奪った韓国が勝利を握った。

(関西学連委員長)

宋・金・朴トリオで23点

第3戦・東北学生選抜との試合は7日午後5時から仙台の宮城県営スポーツセンターに約一千八百人のファンを集めて行われた。審判=森恭一、勝山宏。

成均館大 25 (15—9, 10—3) 12 東北学生選抜

得	【成均】		【東北学生】	得
0	金永年	GK	小野寺(東北学院)	0
0	李承宰	GK	佐藤(仙台大)	0
7	朴烔淳	FP	石田(仙台大)	1
0	康忠根	FP	森(仙台大)	2
9	金秉達	FP	山本(仙台大)	1
7	宋錫仁	FP	泉沢(東北学院)	0
0	奇忠植	FP	梅原(東北大)	5
1	孫泰烈	FP	白幡(宮城教大)	1
0	安義洙	FP	後藤(福島大)	1
0	曺正奎	FP	岩槻(仙台大)	1
1	章載奉	FP	麦倉(福島大)	0
0	田相薫	FP	堀合(東北大)	0
		FP	照井(東北工大)	0
25	(0)	7MT	(2)	12

後記

橋森禎二

〇……戦前の予想どおり、技術レベルの差がはっきり出てしまい、東北選抜はなすすべがなかったといってよい。

成均館大の力強いろえはスピードのあるプレーは前半2分森のミドルに許した1点をすぐにとり返し15分5—2、25分9—2と差をあけた。

特に金(秉)、康をリードオフマンとしてシュート力のある宋、朴を活かしたコンビネーションプレーはすばらしく、宋、金(秉)、朴のトリオに23点を叩き出されてしまった。時おり交える空間プレーも効果的で、ビッグゲームの経験に乏しい東北選抜はディフェンスの甘さもあって完全に振りまわされた。

〇……東北選抜としてはサイド攻撃に活路を見出すハズであったが日頃の冴えがなく、いたずらに当りの激しさをともなった堅い相手ディフェンスの正面をつくばかりというのは拙かった。

反撃の期待された後半も、前半と同じような経過となったが、東北選抜は梅原(東北大)のミドルが決まりだし9点をあげたものの大勢をくつがえすにはいたらなかった。

攻守に反省の残る試合といえるが、なかでも成均館大GK李の固い防禦に東北選抜のシュートがことごとく押えられてしまったのは力不足を痛感させられるものがあった。

(東北学連理事長)

成均館大、多彩な攻撃
気力でも東海学生を圧す

第4戦・東海学生選抜との試合は7月8日午後6時から名古屋市体育館に千二百の観衆を集めて行われた。審判＝赤松英男、浅野克彦

成均館大 25（15－6、10－10）16 東海学生選抜

得	【成均】		【東海学生】		得
0	李承宰	GK	戸田	（中京大）	0
0	金永年	GK	竹内	（名城大）	0
4	章載奉		川口	（名城大）	4
2	孫泰烈	FP	吉田	（中京大）	2
1	康忠根	FP	夏目	（中京大）	0
5	宋錫仁	FP	足立	（中京大）	2
7	金秉達	FP	勝田	（名城大）	6
1	曺正奎	FP	飼沼	（名城大）	1
4	朴炯淳	FP	畑野	（名城大）	1
0	田相薫	FP	河合	（愛教大）	0
1	奇忠植	FP	宮地	（南山大）	0
0	安義洙	FP	高橋	（名城大）	0
			小野	（愛教大）	0
25	（1）	7MT		（0）	16

後記
藤松 博

○……東海選抜は西日本学生が5日まで大阪で開かれていたため、3日後のこの日まで、どの程度選抜軍としての調整ができているのか、一方遠来の成均館大学は遠征チームに対して非礼だと思われる様な、強行スケジュールの中で疲労をどの程度カバーして試合にのぞむのかお互いにハンディキャップを背負ったうえでのゲームであった様に思う。しかし結果的には韓国チームの気力に東海チームが完全に屈してしまった。

○……スローオフ直後右サイドから宋のミドルシュートは、比較的スローペースに慣れ切っている東海選抜にとったは、どぎもを抜かれる様なすばらしいシュートだった。其の後、孫、朴、宋とたてつづけにゴールエリア内での空間利用のシュートで得点され、大きく水をあけられてしまった。

地方のチームの弱点として、以前から指摘されている点は、細かい技術は別として、大半は、スピードについて行けないところにある。

今回の試合についてもそれがあてはまる。西日本学生でベスト4に残っている、中京大、名城大を主力として編成されたチームであれば技術はある程度もっているはずである。しかし自分達の持味をほとんど発揮出来ないまま、ゲームエンドの笛を聞いた様な気がする。

○……単独チームはコンビネーションプレーに特色があり、混成チームでは、個人の特技を局所に展開してこそ意味がある。しかし、こうした特性も、結局は、総体的なスピードが大前提である。走、投のスピードは、技を発揮出来ないまでに完全に相手を封じてしまう。速攻から早い帰陣、固いディフェンスとエネルギッシュなゲーム展開の前には、東海選抜は、手も足も出ない有様だった。そして攻撃面でも実に多彩な展開を成均館大

非常識なスケジュール
全日本学連に反省を促す

▽……試合場をはなれた両国学生の交歓は若者らしい和やかなものがあふれ今年の日韓学生交流も大きな意義をもたらして閉幕したが、ただひとつ残念なのは全日本学連が組んだスケジュールである。

11日間に5試合というのは決してムリではないが、後半3試合が連続、しかも仙台ー名古屋ー東京と移動をともなってとなると〝非常識〟だ。

▽……全日本学連からの日程表が日本協会へ示された時には、すでに準備が完了し変更できず成均館大が承諾してくれたからよいようなものの、場合によっては混乱を招きかねなかった。姜コーチも「日程的には3連戦もしかたがないと思う。しかしあのように遠い距離を廻るとは知らなかった……」と苦笑まじりに話していたし、ある選手も最終戦のミーティングで「疲れましたよ。でも今日で終りだと思い頑張りました」といっていた。

▽……日本協会にも反省は必要だがこのような過酷な日程が組まれた原因は、全日本学連の運営能力の低調にある。計画性のないその場主義の悪幣が遠来チームに礼を欠くことになってしまったのだ。猛省を促したい。

待望の理事陣が決まり、さてこれからという時期だけに今回の学連の拙策は惜しまれよう。

この失敗を踏み台にして全日本学連がしっかりした活動をつづけてくれればよいが——という声を全日本学連首脳陣はすなおに聞いて欲しい。

ついでに、強行な日程に成均館大側の不満が表面化しなかったのは、彼らとまったく同じ日課で寝食・遠征をともにし友情の輪を拡げた学生委員たちの〝努力〟があったことをつけ加えておこう。学生委員諸君、御苦労さま。（杉）

は見せた。

単発的に示す東海選抜の好技も結局のところ、6人のチームプレーではなく、中京大の3名と名城大の3名のバラバラなコンビネーションプレーに終ってしまったところに弱さがあった。特にディフェンス面でその弱さが露呈した様だった。

○……外国チームとの対戦の都度感じることだが、ハンドボール選手の基礎体力の弱さ、この感は、今回の試合でも例外でなかった。

試合結果はともかく、紳士な態で度試合を展開した両チームに対し、観衆は、心からの拍手をおくった。その意味では、国際親善の意義を十分果し得た試合であったと確信しています。（東海学連理事長）

成均館大チームを見て

村田　弘

数少ないゲームを見ただけで、その実力を適確に批評するのは無理と思うが、感じた点をあげてみよう。いちばん強い印象をうけたのは、現在韓国は軍事態勢下にあり国家意識が非常に強く、日本の学生と比較したときに根本に於て違っていることだ。

精神面　国際試合という対抗意識的な観念が強く、勝負意識、勝負根性といったものはすさまじいものを持っていた。勝負に、ゴールに、ボールに対する執念は日本のどのチームより厳しかった。

体力面　先づ体格が平均的身長一七七・五cmと立派で、巾もありがっちりとした体格は体力と相まって、戦力の大きなポイントをなした。8日間に移動も入れ5試合という強行スラジュールにも最後迄頑張り通した体力は、彼等の最大の武器ともいえよう。特にゲームの随所に発揮された瞬発力の優秀さは感心させられた。これは韓国人特有の足腰の強靱さからくるもので、特別な練習でなく、幼ない時から山や谷を歩き、走り回る事によってつちかわれた。生きたトレーニングによるものと洪副会長は云っていた。

技術面　一口に云って、大した見るべきものはなく未だしの感をいだいた。個人技も秀れたというより、体力を生かした基礎に忠実であった。ドリブルを武器として有効に使い、プレーを生かしていた。シュートはうまみこそないがシュートしようという気力と、ボールを離すスピードが早く、又足腰のバネを使ってからのスカイシュートの威力で（ゴールエリア内にボールを投げこみ、高く跳びこんでシュートする）多くのポイントをあげた。これは昨年来日した高校チームもよく使い韓国のお家芸と云ってよい。又めだった一つとして足腰の強さからくるルーズボールの処理は味方にチャンスを産み、又危機を救った。

攻撃は速攻を第一の武器としていた。出足は非常に早いが、GKのボール出しが悪いのと、第一段階はよいが、フロォーの悪い点が見受けられた。

コンビネーションは変化に富んでいないが、ランニングに結びついたスピードある動きで、（日本の防御のつめの悪さも手伝ったが）、ゴール前に強引に突込んできた。又スカイシュートに結びつけるコンビネーションの特徴を持っていた。

攻撃リズムは良いとは云えない特にリードされた時の安定性を欠いていた。

防禦は5・1又は6・0システムを採用し、体力を生かしてはげしく動いた。自分の相手に対しファイトをむき出しにしたプレーは少し荒い面もあったが、これも国際試合の持つ特徴と云えよう。それにしても日本チームはどちらかと云うとゾーンにいて相手に対し人形的な防御で、相手に威圧をあたえなかった。GKと防御との防御の連けい動作に頭を使う光ったプレーもあった。彼等はポストプレーの経験不足からくる前の相手に注意しすぎて危険なポストのプレーヤーの防御をおこたり、うまくボールを入れられ、点に結びつけられた。

戦術面は特に変ったものはなく体力を生かした防御とドリブルを使っての強引は中央攻撃とスカイシュートに結びつけるコンビネーションに特徴を持つチームと云えよう。

成均館大が日本での試合で勝敗よりいろいろな体験をし、プレーを学びとって帰国後益々練習に精進すれば天性のボールゲームセンスと相まって韓国球界は大いなる発展をとげるだろう。又日本の大学も成均館の見せてくれた秀れたものを吸収してもらいたい。そこに交流のもつ重要な意義があるのである。（日本協会オリンピック対策部長）

関東選抜、鮮かな攻撃

第5戦（最終戦）・関東学生選抜との試合は9日午後6時から東京の駒沢屋内球技場に二千人のファンを集めて行われた。審判＝遠藤健次、永山茂

関東学生選抜 19（10−8、9−6）14 成均館大

【成均】	得		【関東学生】	得
李承宰	0	GK	望月（中央）	0
金永年	0	GK	馬淵（立教）	0
章載奉	0	FP	植田（中央）	1
孫泰烈	1	FP	有永（立教）	5
康忠根	1	FP	松原（日体）	1
宋錫仁	3	FP	佐藤（中央）	3
金秉達	4	FP	氷海（日体）	2
朴烔淳	3	FP	大江（芝浦）	2
曺正奎	2	FP	花輪（中央）	1
奇忠植	0	FP	新実（芝浦）	2
安義洙	0	FP	荒井（法政）	0
			佐々木（中央）	2
			明石（芝浦）	0
14	（2）	7MT	（2）	19

後記

藤本　強

全関東選抜の快勝というスコアではあるが、そういうには、成均館大学にやや気の毒であった。北へ西へ東への強行日程の末の最終試合、かなりの疲労の蓄積があるように思われた。

序盤、関東選抜は1勝3敗のあとを受け、慎重な立ちあがりから3分30秒佐藤、4分松原、6分30秒佐藤とたてつづけに決め、守っては、金、朴のシュートをよく防いだ。その後も大江、有永と決め10分には、5−0とした。

この直後、韓国はこれまでの4試合好守を見せていたGK、李をベンチに下げ、金を起用した。李はかなりこれまでの疲労がたたっているのではないかという声もスタンドでささやかれていた。

韓国は12分30秒金の7MTで初得点。この序盤のでき、ふできがこの試合を大きくわけた。

その後は双方とも点をとりあい3点差で前半を終了したが。ときおり韓国が見せるいわれるスカイプレーにその片りんを見るにとどまった。

後半に入り、全関東は1分50秒に得た7MTを佐藤が金の好守に及ばまれ、この逆襲を金によって決められ、9−7とされたのが唯一のピンチ、それもすぐに2分30秒永海、3分40秒有永、4分30秒大江と決めて、再び5点差につきはなした。成均館も金、朴によって反撃するが、後半の追いあげのチャンスに失点したのがひびき、関東選抜の有永のミドル、ロングシュートを中心にした攻撃の前に点差をつめることができなかった。

結局前半の序盤の5連続得点および後半開始早々の成均館大の追いあげムードを先手をうって、三連続得点でつき放したことが関東選抜の勝因になろう。

関東選抜にあっては、10MT以上のロングを決めるなどして良く5得点をたたきだした有永の活躍が特にめだった。

しかしながら、連日の試合からくる疲労にもめげず、その得意とするプレーを見せた成均館大学のメンバーの根性は大いに称されるとともに、今後の交流のあらゆる配慮を十二分にしなければなるまい。二度とくりかえすことがあったならせっかくの親善が水泡に帰すどころか逆効果になろう。

（日本協会常務理事）

〃〃〃〃〃〃〃 西会長がカップ寄贈

全日本学連・西敏郎会長（慶大出）は日韓学生最終戦（7月9日・駒沢）を前に両国学生界の親善と発展の願いをこめて「全日本学連会長杯」を贈った。

同杯は、今後毎年つづけられる日韓学生大会で開催側協会が選んだそのシリーズの最高と思われる試合にかけられるもので、今回は西会長の意向で最終戦の関東学生選抜との試合が選ばれ試合後、勝者の関東学生選抜・植田主将（中大）に同会長から手渡された。

来年は訪韓する日本代表が持参し韓国側の推すカードにかけられる。

麻浦、東亜高が有力

日韓高校ハンドボール

第3回日韓高校スポーツ交歓競技会ハンドボール競技は8月19、21日ソウル市の奨忠体育館で2試合が行なわれるが、来日した韓国協会・洪淳泰副会長によると日本代表の相手校は麻浦高（ソウル）東亜高（釜山）が有力ということであった。

早大、関学に勝つ

伝統の第25回早大−関学定期戦は6月20日東京・早大記念会会堂で行われ、前半のリードを活かした早大が後半も順当に加点、2年ぶりで勝った。通算成績は関学の15勝10敗

早稲田 21（10−7、11−9）16 関学

▽OB戦

早大OB 14−12 関学OB

京大、慶・東を降す

▼第23回慶応−京大定期戦（6月27日・京都市体育館）

京大 21（12−6、9−8）14 慶応

▼第20回東大−京大定期戦（6月京大グランド）

京大 27（15−7、12−5）12 東大

東北大が優勝

第21回東北地区大学総体ハンドボール競技決勝（6月・弘前）、注・ハンドボールは第16回

▽決勝

東北大 18−15 仙台大

洪淳泰副会長に聞く

—今回の交流の印象をお話し下さい

洪副会長 昨夏来韓した日体大よりも今回対戦した各チームはスケールが小さいのではないか。しかしスピード豊かなクロスプレーとボールテクニックは我々も大いに参考となった。

チームでは関東学生、選手では有永（立教）がすばらしい。

—大学の交流も復活して2年目、軌道に乗ったと思いますが

洪 習慣の違いもあるが宿舎や食事をお互いに研究しあう必要があろう。時期については秋（10月〜11月）に是非移したい、全日本学連の西会長から申し出のあった「日本から代表として送るのは単独校ではなく選抜にして欲しい」という件については帰国後協議するつもりだ。

—韓国のオリンピック対策は

洪 来年どのようにして予選をやるのかスイスのIHF本部に問い合せ中である。強化に関しては約30名の〝オリンピック訓錬選手〟がすでに決まり、今春、第1回の強化合宿をソウル郊外のトレーニングセンターで行った。西ドイツからコーチを招く計画もある。

—アジア予選が行われる場合の構想をお持ちですか

洪 本部からの返答が来ないかぎりなんともいえない。問題点の一つとしてイスラエルの去就があろう。

日本と二国で行うことになれば互いの首都で1試合づつとなるがそうなる場合は、今年内に両国協会で打合せをしたい。

—懸案の女子交流については

洪 高校女子の交流を今回の滞日中に是非まとめたいと思ったが日本側に難点が多く曙光を見出せなかった。私の感じでは大学女子の交流の方が早期に実現する公算が濃いようだ。

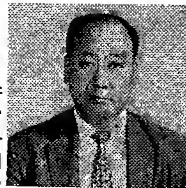
—アジアのハンドボールについて

洪 台湾の活動も本格化しつつあるようなので早急に「アジアハンドボール連盟」の結成準備を進めたいものだ。そして近い将来、アジア大会の正式種目に採用されるよう努力したい。台湾の教員チームが8月日本を訪れるそうだが帰途、韓国に立ち寄ってもらってもよいと考えている。

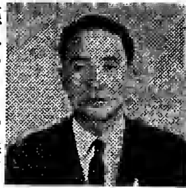
—機関誌を通じて日本の関係者やファンにメッセージを……。

洪 アジアの民族発展のためにも両国はますます固いきずなを結び、ハンドボールを通じて国際親善につとめたい。また、オリンピックとは別に、アジアハンドボール界の確立は急務であり、すぐにでも日本、台湾、韓国による「三ケ国リーグ」を開くべきだと思う今大会に寄せられた日本ハンドボール界各位の好意に深く感謝したい。

（文責・編集部）



洪副会長



姜コーチ

姜仁燮コーチに聞く

—まず、今回の遠征の感想から聞かせて下さい

姜コーチ うまくいけば全勝、悪くても4勝1敗という目標をたてて来たのですが3勝に留ったのは残念です。

最終戦の全関東学生は体力、技術ともに秀れ〝完敗〟でしたが、日体大とは実力でヒケをとらないと思います。

—緒戦の1敗は不本意なわけですね

姜 あのゲームは、審判員の判定に疑問があり悔やまれる1敗です。

—判定解釈については両国でかなり違いがありますか

姜 勝てたから云うのではありませんが、地方の3試合におけるジャッジは韓国とはほとんど変わらずとまどうごとはありませんでしたが、東京の2試合は判定に一貫性がなかったようです。（注・洪副会長もこの点はまったく同感だということだ）

—選手のコンディションはいかがでしたか

姜 やはり食事のちがいと、日程が強行軍なために、ベストコンディションというわけにはいきませんでした。

—前回（昭38）、選手として来日した時に比べて日本の学生選手をどう感じられましたか。

姜 技術的には身長が高くなりそのうえ巧ち性に富んだプレーで向上していると思います。また各チームがそれぞれ独得な技術を持っているのにも感心しました。

しかし、以前に比べたら選手の試合外での行動には〝厳しさ〟がなくなり失望させられました。

規律正しさがなく、あまりにも自由に過ぎるのではないでしょうか。すばらしい技術の持ち主は、精神的にも行動的にもきちんとしたものを持つことが望ましく感じられます。

—両国のナショナルチームが対戦した場合、今回の遠征である程度の予測が立てられますか

姜 韓国には私より秀れたコーチが二、三人いますので、私個人の意見を云うのは控えたいと思います。

—今回の遠征の成果は

姜 両国学生界がよりいっそう親密になったこと。日本の各チームの秀れた戦術と技術を観察できたこと、それに日本の学生連盟の組織がしっかりしているのには感心しましたし、大いに参考になりました。

また、学生の役員が我々とつねに同行してくれて寝食をともにされたことは感謝にたえません。彼らの好意で便宜がはかられたことを選手たちも大変喜んでいます。

（文責・編集部）

大崎電気(男子)、大洋デパート(女子)有利

―第22回全日本総合選手権大会―

第22回全日本総合選手権は8月18日から22日まで和歌山県打田町で開催されるが、別表のように組み合せが決定した。来年からは冬季移行が考えられているので、炎天下最後の大会となろう。
男子は、強力チームが順当に顔を揃え面白そうである。竹野を除くオリンピック候補17選手のプレーもみどころだ。女子はひさびさに21チームという多くのチームが参加したためトーナメント方式で試合が行なわれる。優勝の行方を占ってみよう。

男子

ワクナガ薬品、東京教員の争いか

実業団、教員、学生、クラブの雄が集り、好試合が続くことが予想される。

Aブロックには強豪が集中している。教員界のトップチーム東京教員、初出場ながらチーム力は国内の超一流と目されるワクナガ薬品、西日本学生で優勝し意気あがる大阪経大、現役に江名(オリンピック候補)小野口を加えた全立教、激戦区を勝ちぬいた清水商クと揃った。

一回戦では東京教員―全立教大が好試合となろう。立教大は部員不足で関東学生では好成績を残せなかったが、強肩の左腕・有永(オリンピック候補)に江名、小野口両OBの応援でかなりの力をもっている。東京教員は昨年の教職員大会優勝メンバーに平岡(オリンピック候補)浅野らが加わり、力をつけている。清商クと大経大の試合も好試合となろう。大経大の好調は無気味。一方逆のサイドはワクナガ薬品がすんなり勝ちぬくことになろう。同志社大は中井(オリンピック候補)の負傷が治らぬと苦しい。日進商会もチーム力があがっているが、熊本トヨタとともに相手がワクナガでは荷が重い。順当にいけば準々決勝はワクナガ―東京教員になろう。ワクナガがやや有利とみたい。

中大、三景、芝工大が並ぶ

Bブロックは中大、三景、芝工大の三者の中から、勝者がでるとみてまちがいはなかろう。一回戦ではもつれる可能性のある試合は少なそうだ。自衛隊勝田、岩手教員クもそれぞれの中では強力をうたわれているが、中央大、三景が相手ではちょっと辛い。

地元の和歌山教員はチーム力が向上しているだけに一回戦は勝ちぬこうが、二回戦の芝工大でどれだけ戦えるかが問題となろう。鹿児島大、北農クは苦しい。中大―三景は二回戦屈指の好試合。中大はのぼり坂であるし、三景は若手の成長に喜田、武井を加え、チーム力はあがっている。この勝者と芝浦工大が準々決勝を争うことになろう。この中からどこが抜け出すか判らないが、中大―三景の勝者がやや有利であろう。

日体大、埼玉教員、イーグルスが有力

Cブロックでは、日体大、埼玉教員、大阪イーグルスの争いと見られるが、一回戦で日体大と埼玉教員がぶつかることになった。日体大はGK・本田(オリンピック候補)を要にした守備力は超一流であり、埼玉教員もこの堅守を崩すのは容易でなかろう。埼玉教員はこれをのりこえれば、一挙に準決勝に進出することも可能であろうが、日体大の壁はあつかろう。

もう一つのサイドでは大阪イーグルスが有力。常盤工業、桃山学院大、丸善石油広島商大、坂出常盤クがこれをどう阻むかにかかろう。

結局、準々決勝は日体大―大阪イーグルスで争われることになろうが、斉藤(オリンピック候補)らスピードに優る日体大が抜け出す公算が強い。

大崎電気の独走か

Dブロックは大崎電気が勝ちぬくことになろう。これを阻むとすれば大同製鋼と全日体大。しかしよほどのことがない限り、大崎の堅城をぬくことは困難であろう。大同製鋼も野田(オリンピック候補)戸谷に藤中(オリンピック候補)加藤などを加え、昨年とは格段のチーム力になっているが、まだ大崎に勝つことは難しかろう。全日体大は日体大の二軍で若さにあふれた好チーム。

結局準決勝はワクナガ薬品―中央大もしくは三景、日体大―大崎電気ということになろう。

これにかわることになるとすればAブロックの東京教員、Bブロックの芝工大、Cブロックの埼玉教員、大阪イーグルスになろう。

以上のチームの中で、どこが決勝戦に残り、更に優勝するのはということになると非常に難しいが近藤、近森、飯田、東、GK下里と5人のオリンピック候補を攻守の要に配す大崎電気が最有力と見たい。

【藤本　強】

女子

強豪が4ブロックに分散、上位戦は激しい星のつぶし合いが予想される。

本命はやはり大洋デパート(熊本)。去年の四冠王につづいて今年も全タイトル独占を狙っているが、それだけの実力は充分にある。枝尾、渡辺、垂水、米、三宅、島田、GK小原のレギュラーメンバーはいっそう磨きがかかりスキがない。井監督は「新シーズンに入っての試合数が少ない」とこぼすがスタッフのキャリアから推してそれがハンデになることはあるまい。

大洋デパートを追うのは組合せからみてブラザー工業(愛知)、田村紡(三重)、大崎電気(東京)を第一グループに、紙一重の差で

東京重機（東京）、日本ビクター（茨城）がつづくと思うが卒直にいって大洋デパートとの"差"を感じる。

ブラザー工業は朝倉、中野、五十嵐らに新人藤浪、小島、金村らを加え厚味が増したが試合運びに波がある。

田村紡は渡辺信を軸に三毛、金田、若林らの若手で臨むがやはり安定感にかけるようだ。

大崎も木幡の復調、新島、寺尾三浦、真田、新人佐藤と並べるがチームとしての力は未だし。

期待がかけられるのは東京重機だ。滝口、鷲谷、牧野、村上ら攻撃力は高い。ディフェンスに不安はあるものの大洋デパートも油断はできないだろう。

旧・三菱鉛筆勢で組む日本ビクターの試合ぶりも注目される。蓮見姉妹、江川、阿保、阿部、八重樫GK吉田らが本調子なら面白い

学生勢のレベルアップが伝えられるがどんなものか。中京大（愛知）、東京女体大（愛知）はともに初出場の実業団が緒戦の相手。東北宗形（福島）にとっても、大洋紡（岐阜）にしても自らの戦力を知るうえに逃せぬ一戦である。

関西ナンバー・ワン甲子園大（兵庫）の力も買われているが東京重機では荷が重そう。

日体大（東京）は前回3位の美和ク（東京）をどう捌くか。

美和クは早川、加藤（井）、鈴木、小林、GK山田ら大崎OGで固める。試合かけ引き、要所を逃さぬプレーは相当なものだ。練習量が充分でないだけに日体大としても充分につけいるスキはある。

このほか国体を控えて強化の成果があがっている全岩手、日体の若手OGによる関西日体ク、OGの山口を補強した全東京教大、地元和歌山クらがどこまでやるか。

また山陽女OG（広島）、全尻川（兵庫）の斗志にも期待したい

唯一の高校現役・粉河高（和歌山）の健斗は、地元だけに声援を集めよう。女子の場合、好新人の輩出はあるものの有力選手の相次ぐ退陣でひところの活気に欠けるような気がする。来年、世界選手権が開かれれば、当然今シーズンの力が評価の大きなデータになる。各チーム、各選手とも思い切ったプレーを見せて欲しい。

【杉山　茂】

男子組み合せ

- 全立教大学（協推）
- 東京教員（教推）
- 清商クラブ（東海）
- 大阪経済大学（学推）
- 同志社大学（学推）
- （株）日進商会（実推）
- 熊本トヨタ（九州）
- ワクナガ薬品KK（近畿）
- 中央大学（学推）
- 自衛隊勝田（実推）
- 岩手教員クラブ（東北）
- 株式会社三景（実推）
- 和歌山教員（和歌山）
- 鹿児島大学（学推）
- 北農クラブ（北信越）
- 芝浦工業大学（学推）

- 日本体育大学（学推）
- 埼玉教員（関東）
- 常盤工業KK（実推）
- 桃山学院大学（学推）
- 丸善石油（和歌山）
- 広島商科大学（学推）
- 大阪イーグルス（教推）
- 坂出常盤クラブ（四国）
- 住友化学菊本（実推）
- 名城大学（学推）
- 全日体大（関東）
- 日新製鋼呉（中国）
- 奈良クラブ（近畿）
- 大同製鋼KK（東海）
- 岩手大学（学推）
- 大崎電気KK（協推）

女子組み合せ

- 大洋デパート（熊本）
- 中京大（愛知）
- 東北宗形製作所（福島）
- 東京重機（東京）
- 甲子園大（兵庫）
- ブラザー工業（愛知）
- 全岩手（岩手）
- 日体大（東京）
- 粉河高（和歌山）
- 美和ク（東京）
- 田村紡（三重）
- 関西日体ク（大阪）
- 全教育大（東京）
- 日本ビクター（茨城）
- 大阪体大（大阪）
- 和歌山ク（和歌山）
- 東京女体大（東京）
- 大洋紡（岐阜）
- 山陽女OG（広島）
- 全尻川（兵庫）
- 大崎電気（埼玉）

全日本高校選手権展望

第21回全日本高校選手権は8月3日から8日まで滋賀県彦根市に全国各地の激しい予選を勝ち抜いた精鋭男女各52校（史上最高）を集めて行なわれる。組み合せにそって有力校を探り出してみよう。なお男子優勝校は日韓高校大会の（8月19・21日・ソウル）代表に推される。

嶋田 新太郎
（日本協会常務理事）

各県ともチーム数の増加で〃全国大会への道〃はますますけわしいものになっている。

それだけに、晴れの舞台へコマを進めた代表校の実力は高く買ってよい。例年同よう、今大会も新鋭・古豪の登場がまず話題になるが、初出場校で最大のトピックは男女で宿願を果した財部（鹿児島）だろう。このほか男子では笠間（茨城）が部創立19年目に宿願をはたし神奈川代表二校も初めて。新顔は男子11、女子8を数える。

連続出場では男子では松江工（島根）が7年、中央大附属（東京）が6年、女子では徳山（口山）が13年、栃木女（栃木）が12年と快記録をさらに伸ばし、和洋（秋田）も10年つづけての登場である何れも偉業だ。（各校の出場回数は組合せに付した数字をごらんいただきたい。）

ところで、一部に「各校の実力は去年に比べて落ちている」という声がある。そうした面を認めぬわけではないが、むしろ実力の平均化（特に地域差の解消）、技術の多様化に原因があるとみてよく一歩前進のための〃過渡期〃といってよいのではなかろうか。

各校とも盛夏の本大会を目ざして調整に全力を傾けており、例年どおりの好内容を期待したい。

男子

楽観許さぬ下関中央工

Aゾーンには3連勝を狙う下関中央工（山口）を筆頭に桜台（愛知）明星（東京）の優勝経験校、3年計画の最後の年を迎えた小倉工（福岡）ら強豪が集り最激戦のグループとなった。

下関中央工は、中国大会（5月）に3連勝するなど健在ぶりを示してはいるが、昨夏に比べて力強さに乏しい。緒戦からダークホース浦和市立（埼玉）—盛岡商（岩手）の勝者といろきびしいクジ運であり、しかも次の相手は桜台—小倉工の勝者とつづくのだから楽観は許せない。枚方（大阪）も強い。近畿大会（7月）では安定した攻守で優勝、自信を高めている。Aゾーンから優勝校が出るといった評判もあながち〃早計〃ではない。地元八幡工（滋賀）の力も侮れまい。

激しい星のつぶし合い

Bゾーンは〃絶対〃の力をもつチームがなく、それだけに混戦模様だ。

当りの強い熊本市商（熊本）、頭脳的なプレーを展開する上田（長野）、斗志にあふれた塩山商（山梨）、伝統の力を誇る加納（岐阜）などが激しく星をつぶしあうことになろうが、大和（神奈川）、高岡東（富山）、笠間（茨城）の初出場組も激戦地区からの勝ち上がりだけに実力を存分に発揮すれば、もつれにもつれそうである。Aゾーン各校には一歩ゆずる感じだが、準決勝まで進んだ勢いがつづけばこのゾーンの勝者は波乱の目。

新進校の活躍に期待

Cゾーンは昨年の〃主役〃富岡（群馬）のほかは新進校が並び興味深い。メンバー一新の富岡は予選前の猛練習が実って出場で上り調子、地元の与望を担う彦根東（滋賀）も張り切っており面白い。

6年ぶり出場の兵庫工（兵庫）の評判もいいし、都島工（大阪）松蔭（愛知）は初出場ながら上位進出を狙っている。特に松蔭は東海大会（6月）でも強豪を連破、波にのっている感じ。このほか九州を制した佐世保北（長崎）も軽視できない。横浜一商（神奈川）は松蔭を降せば余勢をかいそうだ。興南（沖縄）の進境も話題だろう。

呼び声高い中大附属

Dゾーンではなんといっても中央大附属（東京）が注目される。

2年つづけて決勝で下関中央工のために涙をのんだわけだが、「3度目の正直……」という声も聞こえる。関東大会（7月）は優勝したものの本調子といえなかったが都会チームらしい洗錬されたカラーはユニークだ。

行く手に立ちはだかるのは名門清水商（静岡）、大型な湯沢（秋田）、渋とさをもつ広（広島）、四国ナンバー・ワン新居浜工（愛媛）あたりではなかろうか。特に斗志鋭い清水商と湯沢の存在は無気味。東北大会（6月）1位の湯沢は優勝を狙える力がある。

このほか進境いちぢるしい国学院栃木（栃木）、若狭（福井）、下松工（山口）らのまとまりが買えよう。

インター・ハイは予想どおりにいかぬところに球を高めるいちばん大きな原因があるわけ、だがとりわけ今年はせりあいが激しい。大会が6日間に亘るだけにコンディショニングも微妙な作用をするわけで予断は全く許さない。

女子

新居浜市商、練習量で自信

昨年優勝の新居浜市商（愛媛）は優勝メンバーから5人を卒業させているが練習量でカバー、その実力は前回に優るとも劣らない。四国大会（7月）も危気なく勝っており今年も優勝第一候補に推してよいようだ。

このゾーンにはほかに近畿1位の大谷（大阪）、真備（岡山）、昭和学院（千葉）、深谷女（埼玉）小松市女（石川）ら強チームが居り新居浜市商も油断は禁物。2回戦に予想される大谷戦は連勝への大きなヤマ。

初の代表となった青森西（青森）のまとまりも見すごすことはできない。粉河（和歌山）も元気。

ひしめく名門・有力校

Bゾーンは、室蘭商（北海道）、水海道二（茨城）、和洋（秋田）、山陽女（広島）と四地域のチャンピオンが並ぶほか名古屋女商（愛知）、湧谷（宮城）、など出場の

たびに有力グループに名を列せられる強豪がひしめいている。

このほか地元・八幡商（滋賀）高知西（高知）、めっきり力をつけて来た筑紫女（福岡）と津女（三重）。

室蘭商―山陽女×和洋の勝者の進出とみたいが男女を通じこのゾーンほどもつれそうなグループはない。

上位進出狙って激戦

Cゾーンにはとびぬけたチームが見当らない。各校に上位進出のチャンスがあるわけだ。

順当なら夙川学院(兵庫)―花巻南(岩手)勝者が勝ち残るだろうが桜水商（東京）、高蔵女商（愛知）島原農（長崎）も力がある。これらを追う平塚江南（神奈川）、山梨（山梨）、益田（岐阜）も好調のようだ。初出場組が三校並んでいるが、成長の土居（愛媛）が抜け出て来そうである。

優勝狙う静岡城北、熊本ら

Dゾーンでは東海1位の静岡城北（静岡）が久々に強力な布陣と伝えられる。出場19回は男女を通じて最高。対抗は栃木女（栃木）枚方（大阪）、熊本市立（熊本）あたりだが枚方と熊本市立は緒戦で顔が合う。悔れないのは前橋市女（群馬）。

昨年ベストエイトに進んだ小禄（沖縄）の粘りが今年も発揮されるかどうか。小諸商（長野）も安定している。ほかに地元・高島（滋賀）徳山（山口）が手強い。

女子は全般に力倆差が僅かであり、いかに得点機をつかみ有効打を放つかにあろう。小さな失敗が勝負そのものにつながることが多いだけに男子以上の"確実さ"が望まれるわけである。また脚力―走ってチャンスを生む―ことが肝要だ。慎重なあまりローリングの繰り返しが試合時間の大半を占めるようではレベルアップは期待できない。

栄冠の行方を占う

さて最後に編集部からの情報などをふくめて男女の優勝をズバリ占ってみよう。

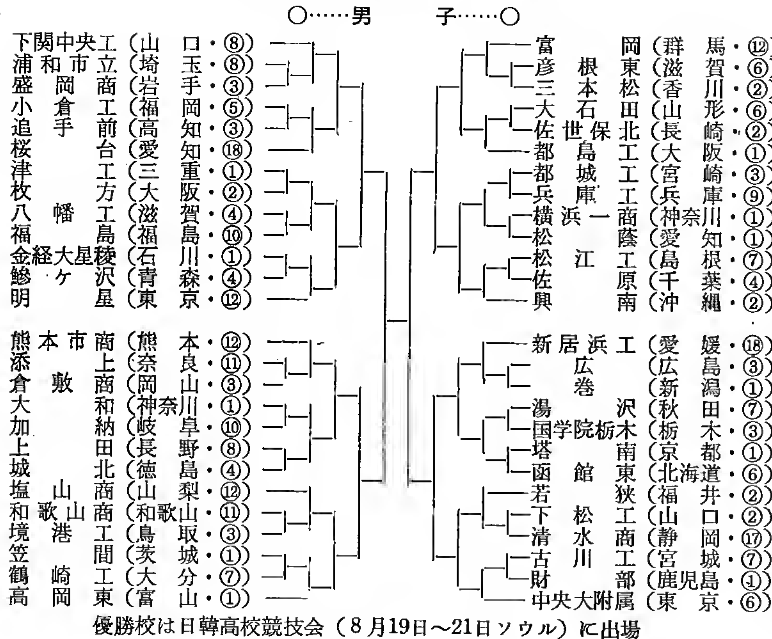
男子は最短距離が下関中央工と中央附属。文字通り紙一重の差で桜台、小倉工が追いダークホースに明星、枚方、湯沢とみたい。

下関中央工―中央大附属の対決となるようなら実に3年連続であり、かつての桜台―中京商（愛知）の白熱戦を偲ばすエキサイトした決勝になろう。

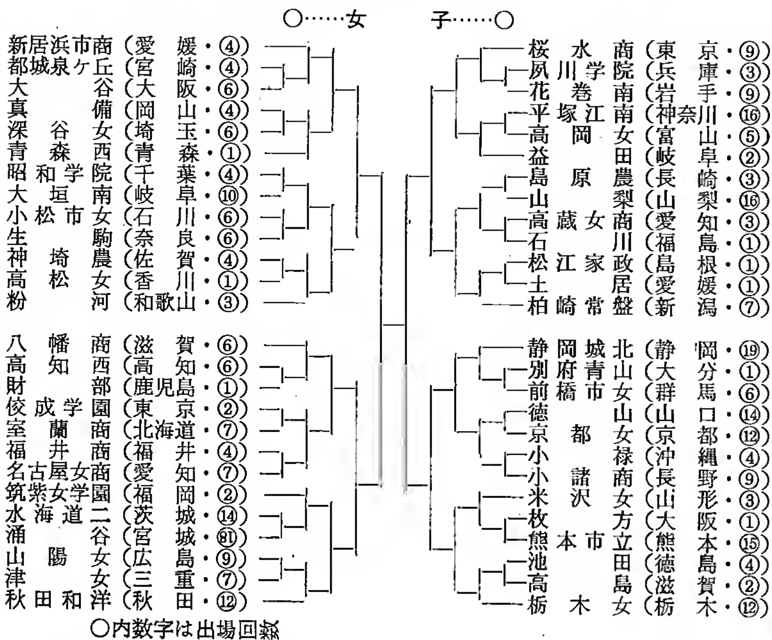
女子は新居浜市商を追って和洋大谷、静岡城北、水海道二、室蘭商がトップグループ、ダークホースとして山陽女、栃木女、島原農を推しておこう。

ミュンヘンオリンピックへの出場や、女子の場合は世界選手権など国際的にも大きな飛躍が期待される斯界だが、それにはなんといっても若い層の充実が待望されている。母校の名誉をかける一方、春秋に富んだ高校選手が力いっぱいの健斗を示されるよう心から念じておきたい。

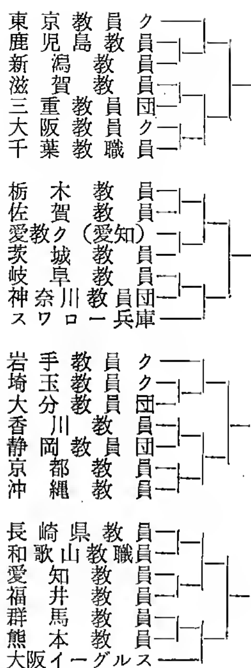
第21回全日本高校選手権組み合せ



優勝校は日韓高校競技会（8月19日～21日ソウル）に出場



○内数字は出場回数



攻撃力増した東京教員ク（前回優勝）

追う大阪 兵庫、埼玉 全日本教職員選手権予想

第13回全日本教職員選手権は8月14日から16日まで三重県四日市市の緑地公園競技場に28チームが参加して開かれる。タイトルの行方を探ってみよう。（杉山）

前回のベストフォア東京教員、大阪イーグルス、岩手教員ク、スワロー兵庫それに埼玉教員クが今夏も強そうだ。

2連勝を狙う東京はGK綿貫、大西、高野、藤原、山口、手島光渡辺に新人浅野を加えたうえ、オリンピック候補・平岡（大崎電気を退社、東京暁星学園に勤務）を迎えもっとも安定した戦力である。高野、藤原、浅野らの巧技と大西平岡のパワーをミックスした攻撃力は相当なものだ。

東京の強敵はスワロー兵庫。順当なら準決勝で当ろう。つねに優勝有力と予想されながら勝運に恵まれぬが井上、畑、北山らに山中、木野、GK上野らが加入、スキがない。

この両者の勝者と決勝を争うのは埼玉——大阪イーグルスの勝者とみたい。波乱があるとすれば埼玉が緒戦で大分、2回戦で岩手と顔を合せるところだろう。

埼玉は国内の代表的左腕・北井が相変らずシャープなプレーを見せ高田、結城、河住、GK高橋も健在。ダークホース視されている岩手は高田、増田、谷藤、藤沢、熊沢らでヒケをとらない。

大阪イーグルスも元気だ。福井樫塚を軸に北岡、東、青木、井上松尾、GK島崎と古強者が並ぶ。

塩崎、鈴木の和歌山、大宮、藤井の長崎のほか熊本、福井ら強者の斗志にかこまれて苦しいが、持ち前の試合運びの巧さで勝ち進もう。このほかバランスのとれたチーム力を誇るのが地元・三重、鹿児島、千葉、岐阜あたりで沖縄の進境も注目してよい。

なお、昨年試みられた1回戦敗者による「コンソレーション・トーナメント」は今年も行なわれ、勝者には四日市々長杯が贈られるという。埼玉×大分または長崎×和歌山の敗者が有力？だが、なによりも好企画をうけつぐ姿勢がうれしい。

沖縄講習会に招かれて

安藤純光
（日本協会審判部長）

　沖縄ハンドボール協会の要請によって、日本ハンドボール協会と共催による講習会が去る6月5日から5日間にわたって沖縄全域（名護5日、那覇6日・7日、宮古8日、八重山9日、）四会場で開催された。講習会には田村会長も出席され、世界のハンドボール界における日本の位置、日本のハンドボール界の現状と進路などについて話をされ、沖縄におけるハンドボールの発展を激励された。梅雨期ではあったが第一日目の5日をのぞいては晴天に恵まれ、講習会の運営はスムーズに行なわれた各会場とも多くの参加者（名護50名、那覇150名、宮古50名、八重山50名）を得てきわめて盛会であった。

　ハンドボールが昭和47年度から中学校の要目に登場するということで、中学校の先生方も多く参加され熱心に受講された。講習は全くの初心者を対象とした段階と、参加した高校生（部員）を対象としたルール解説と技術にわけて行なわれたが、時間不足の感もあったが熱心な受講により充分におぎなうことができた。ことに各会場で、全くハンドボールを知らない先生方が、高校部員のハンドボールのゲームを見てすぐそのあとで「我々自身がからだでおぼえよう」ということで2組にわかれてゲームが行なわれ、ゲームの中で説明が行なわれ理想的な講習会となり短時間に充分効果をあげることができた。

　沖縄にハンドボールが渡って今年で5年になるとのことであったが、その成長ぶりはおどろくべきものがある。これには本土からの高校チームなどの遠征が大きな刺激になっている。しかしそれにも増して沖縄ハンドボール協会の仲田会長、平仲理事長をはじめとする役員、関係者の熱心さが今日の隆盛をもたらしたものであろう。今回、講習会とは別に第1日だけであったがインターハイ沖縄大会を見る機会を得た。男女31チームの参加は、認識不足の小生にとってはおどろきであった。全競技を見ることはできなかったが、午前中雨でグランドコンディションが悪かったことを考慮にいれて、沖縄におけるハンドボールは小生の想像していた以上のものであったしかしながら全般的に見て、本土との技術的な格差があると云わざるを得ないのが現状である。

　沖縄は周知の通り大小の島々から成っている。このことはあらゆる面で不便さがある。本島の那覇で大会が行なわれたが、宮古・八重山からは船で10時間あまりの旅をしなければならない。勿論費用を考えなければ飛行機もある。これら離島から本島へというハンディキャップは、沖縄から本土へのハンデキャップと同じことでありさらに拡大してみれば、日本がヨーロッパに対して背負っているハンデキャップに通じるものである日本ハンドボール界は、ミュンヘンを目指してあらゆる障害をのり越えて努力をつづけているし、これからもこの努力は続けられなければならない。日本が背負っている宿命を沖縄もまた本土に対して背負っている。幾多の困難が横たわっている。しかしこれをふみ越えて積極的に交流することが現在の域を脱する道であろう。

　今回の講習会は、どちらかと云えば技術的な面が多かったので、小生の任ではなかったかもしれない。しかし地元協会の方々の協力を得て無事に終了することができた。沖縄協会の各位のハンドボールに対する熱意に敬意をはらうとともに、協力に対して誌上をかりて深く感謝する。

　最後に沖縄のハンドボール選手諸君に誌上をかりて一言、前に述べたように沖縄にはさまざまなハンデキャップがある。しかし諸君をなんとかして立派なハンドボールプレイヤーとして育ててあげようとして先生方は日夜頭をなやまし指導しておられる。

　一途にハンドボールを愛し練習に励まれるように祈る。本土に追いつき、追い越せ!!

台中県教員（台湾）が来日

東京教員らと交歓

日本協会は7月18日の月例常務理事会で、来日の希望をよせた台湾の「台中県教員」（現地名・台中県小学教師手球隊）を招待することに決めた。

同チームは、今年五月の台湾省の教員選手権で優勝、教員界と小中学校を主流に発展の礎を築きあげている台湾球界では、もっとも安定したチーム力をもっている。

来日メンバーは台中県々長（知事）の王子癸氏を団長に役員4、選手12人。日本協会は夏の全日本選手権が連続して開かれている時期でもあり、各地を転戦する親善試合は難しいとし、全日本教職員連盟の全面的な協力で8月14日から16日まで三重県四日市市で行われる第13回全日本教職員選手権にゲストチームとして招く。

現在の予定では、別表の3試合が組まれているが、台中県教員は全5試合を希望しており、場合によっては関西地区で2試合が追加されることになるだろう。

詳細は未定であるが今後関係者の間の折衝で決定することになっている。

「台中県教師」選手団

団長	王子癸	(56)	台中県々長
コーチ	楊正雄	(31)	沙鹿小教員
マネジヤー	陳秋林	(31)	台中県政府教育局
総務	周貽謀	(47)	清水小教員
選手	簡洋輔	(29)	神岡小教員
	商登漠	(29)	竹林小教員
	蔡炳坤	(33)	清水小教員
	陳煙慶	(27)	三田小教員
	曾世永	(24)	竜津小教員
	李丁春	(31)	健民小教員
	陳清坤	(28)	竹林小教員
	陳玉衡	(34)	鳥日小教員
	林建煉	(29)	鳥日小教員
	陳国沢	(27)	沙鹿小教員
	洪桂森	(38)	清水小教員
	李孫憲	(30)	大安小教員

※選手のポジションなど不明

ところで台湾協会は二、三年前からの胎動期を経て6月12日、待望の台湾ハンドボール協会が正式発足したが、すべてに〝未完成〟であり日本の協力を強く要望している。

活動のリーダーとなっているのは戦前、早大のHBとして鳴らした宋丙堂氏で、個人の情熱からスタートし、短時間に協会設立までにこぎつけた苦労はなみたいていのものではなかったろう。昨年来日し日本球界を視察して帰った温展洪、陳金樹氏らが宋氏を手助けしている。

日本協会は、近い将来「アジア・ハンドボール連盟」を組織する構想をもっており台湾の意欲的な動きは力強いはげみでもある。

日台教員親善試合（予定）

▽第1戦　8月14日　対東京教員ク

▽第2戦　8月15日　未定

▽第3戦　8月16日　対三重県教員団

〜いずれも四日市市〜

なお、日台の交流は今春3月、全日本男子が世界選手権の帰途立ち寄って紅白試合を公開しているのについで二度目だが、台湾チームと対戦するのは今回が最初。

一行は8月11日頃来日の予定。

小学校の交流は見送り

なお、台湾協会は台湾地区小学生選手権で優勝した台北市立東門国民小学校チームを台中県教員と滞同で日本に派遣、名古屋市などの小学生と交歓試合を行ないたい旨強い要望を寄せて来たが、日本協会は慎重な協議の末「受け入れ態勢が充分でない」との理由でこの申し出を断り、来年度以降に実現するよう努めることとした。

このような形で小学生の交流の希望があったのは初めてのことであり、今後の問題点の一つとなろう。小中学生の交流が、近隣の諸国から申しこまれる可能性は十分にあり、その際小学校・中学校チームとして行なうのか、スポーツ少年団としてとか、クラブチームとして行なうのかは、今後の年少者対策とのからみあいもあり、微妙な点となろう。台湾では各競技とも小学生のレベルアップは著しいものがあり、ハンドボールの場合も例外ではない。日本ではもっとも遅れている面であり早急に日本協会としての年少者対策をたてる必要があろう。

大阪経大、宿願の初優勝

東海勢が健斗

女子は甲子園大に初の栄冠

男子41校が激戦

西日本学生

男子第10回、女子第1回西日本学生選手権は6月30日から6日間大阪市中央体育館に男子41、女子6校という多数のチームが参加して行われた。

今年から東海学連が転入したためいちだんと活気がみなぎり久々に中国、九州勢も出場、熱戦が相次いだ。

その結果、男子トーナメントはベストエイトに関西6、東海2が勝ち進み、注目の準々決勝名城大×同志社大の東海、関西春季優勝校同士は名城大が前半のリードを活かして制勝した。これで名城大の初制はが有望とみられたのだが準決勝の関西、東海の同士討ちで中京大が名城大を破り決勝は大経大×中京大という両学連2位の対決と変わり、大経大が後半一気に差をつけ初の優勝を飾った。大阪経大がビッグタイトルを得たのは初めて。前回1位の関西大は3位。

初の女子は関西6校が2敗失格システムのトーナメントを行い決勝で甲子園大が大阪体大に逆転勝ち優勝を遂げた。

▽男子1回戦

名古屋大 16―11 京都工芸大
熊本商大 18―9 和歌山大
九州産業大 19―17 大阪工大
西南学院 22―15 近畿大
愛知教大 28―14 大阪薬科大
竜谷 23―12 香川大
京都大 33―14 名古屋学院
大阪外語大 23―16 関西外語大
大阪教大 34―15 天理

▽同2回戦

関西大 19―8 名古屋大
熊本商大 12―10 岐阜大
京都産業大 28―8 大阪歯科大
大阪経大 36―9 西南学院
南山 21―12 大阪大
松山商大 20―10 愛知教大
京都大 23―8 立命館
関学 22―13 九州産業大
追手門学院 17―9 甲南
大阪体大 19―14 神戸大
中京 27―8 竜谷
京都教大 20―18 滋賀大
同志社 39―11 大阪教大
桃山学院 40―11 大阪外語大
名城 24―2 大阪府立大
大阪市立大 20―15 広島大福山

追手門学院ベスト8へ

▽同3回戦

関西大 24―5 熊本商大
関学 17―17 京都産業大
大阪経済大 30―14 南山
追手門学院 23―12 松山商大
中京 16―15 大阪体大
桃山学院 22―15 京都大
名城 39―4 大阪市立大
同志社 27―9 京都教大

名城、同志社を降す

▽同準々決勝

関西大 17（7―4、10―9）13 関学
大阪経大 29（14―8、15―11）19 追手門学院
中京 11（4―6、7―4）10 桃山学院
名城 13（7―2、6―6）8 同志社

▽同準決勝

大阪経大 19（10―5、9―8）13 関西大
中京 12（7―2、5―6）8 名城

▽同3位決定戦

関西大 13（6―6、7―4）10 名城

▽同決勝

大阪経大 15（7―6、8―4）10 中京

得	【大経】		【中京】	得
0	森友	GK	戸田	0
0	山田		福井	0
4	脇田	FP	足立	2
3	清水		吉田	1
2	沢田		笹野	0
0	貝原		長縄	0
0	佐藤		高両	1
3	橋本		夏日	4
0	牛屋	（審・藤林・堀）	成田	2
2	奥川		大野	0
0	津川		小島	0
0	穂積		谷口	0

15（1）7MT（0）10

▽女子1回戦（2試合）

大阪教大 ― 大阪薬科大
夙川学院 ― 武庫川大

▽同敗者1次戦（1試合）

武庫川大 ― 大阪薬科大

▽同2回戦（2試合）

甲子園大 21―3 大阪教大
大阪体大 15―5 夙川学院

▽同敗者2次戦（1試合）

西日本選手権から

関 仁内

日本を二分する大きなブロック大会である。それだけに、地元関西学連以外の地方からの参加チームは大きな期待を持って集まった。ところが、どっこい大会はお粗末そのものだったのは残念だったし、期待した選手たちを失望させた。

特に審判がひどかった。関西学連では従来リーグ戦その他の審判を大阪協会に委頼してきたが『学連の手で』という積極的態度で、今大会から関西学連加盟校のOBで審判を賄うことを大会前に確認決定したらしい。聞けば各校に審判を割り当て、もしそれにそむけば来春リーグから一部校なら二部の最下位、二部校なら三部の最下位から出発させるというきびしいペナルティまで科したという。

このような大きな大会例から特に大事な審判問題に新らしい姿勢で取っ組んだあたりにすでに頭をひねるものがあるが、それはともかく、いざ試合となると各所に問題が起きた。しかも本部席には役員は皆無、控え審判がいるわけじゃなし……。

審判のちぐはぐな判定に、主催連盟のルーズさ加減に頭にきた地方校の中には『もうこんな大会に二度と来たくない』といい出すものさえ出る始末。

選手は一生懸命やった。大経大という新らしいヒーローも生まれた。大会にケチをつけるつもりは全くない。こんなことでは学連の名にかかわる奮起を待つというわけである。

10年目を迎えたこの大会男女合わせて47校参加という活況だけによけい不手際はしてほしくなかった。（投稿）

夙川学院　—　大阪教大

▽同3回戦（勝者ゾーン決勝）

甲子園大 11（—　—）4 大阪体大

▽同敗者3次戦（1試合）

大阪体大 17（8—1 9—7）8 夙川学院

▽同決勝

甲子園大 9（3—4 6—2）6 大阪体大

	【大体】	得
GK	戸谷	0
GK	山城	0
FP	石川	0
FP	玉岡	0
FP	吉本	2
FP	大島	0
FP	岡	2
FP	森崎	2
FP	花谷	0
FP	堀川	0
FP	周防	0
FP	春名	0

	【甲子】	得
GK	柿田	0
GK	道尻	0
FP	辻	3
FP	吉開	1
FP	中本	1
FP	篠原	0
FP	岩井	2
FP	和歌	1
FP	宮田	1

（審・谷 橋谷）

9（0）7MT（0）6

○●○……ブロック高校選手権……○●○

インター・ハイを前にして恒例のブロック（地域）高校選手権が各地で開かれ熱戦を展開した……。

第12回 北海道高校

函館東と室蘭商勝つ

6月28、29の両日紋別北高に地区予選を勝ち抜いた男子8校、女子7校が参加して開かれた。

それぞれ二組の予選リーグのあと、各組勝者によって決勝戦が争われたが、男子は函館東が予選から危気ない試合ぶりで制勝、新進・北見工は惜しくも2位に終った。

女子は室蘭商が安定した攻撃を示して決勝でも登別を押し切った

▽男子予選リーグ順位〔A組〕①函館東3戦全勝②室蘭清水丘2勝1敗③紋別北1勝2敗④釧路工3敗

〔B組〕①北見工3戦全勝②函館有斗1勝2敗（得24、失30）③札幌商1勝2敗（26、35）④室蘭東1勝2敗（34、52）

▽同決勝

函館東 11（7—6 4—3）9 北見工

▽女子予選リーグ順位〔A組〕①登別2勝1敗（得26、失16）②紋別北2勝1敗（18、12）③函館女商2勝1敗（18、12）④駒沢大岩見沢3敗

〔B組〕①室蘭商2勝②函館商1勝1敗③紋別南2敗

▽同決勝

室蘭商 8（3—0 5—2）2 登別

（注）男女とも予選リーグのスコアは本誌26頁「全日本高校選手権予選記録・北海道」の項参照

第23回 東北高校

男女も秋田勢が優勝

6月27、28の両日秋田県立体育館を主会場に各県予選の上位校男子12、女子11校が参加、トーナメントで行われた。

この大会は昨年まで国体予選を兼ねて秋季に開かれていたものだが今年からこの時期に移したものでインター・ハイの前哨戦と期待どおりの成果を得たようだ。

男子は、前年首位の湯沢（秋田）が準決勝で盛岡一（岩手）に苦戦した以外はバランスのとれた攻守を見せて連勝を飾った。

女子は予想どおり和洋（秋田）—涌谷（宮城）の対戦で優勝が争われ和洋が鮮やかな逆転を演じて4年ぶり5度目の優勝をとげた

秋田代表の男女制はは昨年につづき2度目である。

▽男子1回戦

盛岡商（岩手）14（3—3 11—2）5 大石田（山形）

古川工（宮城）14（7—4 7—5）9 大曲農（秋田）

盛岡一（岩手）16（8—4 8—5）9 寒河江（山形）

湯沢（秋田）25（10—3 15—2）5 青森商（青森）

盛岡商 19（8—1 11—5）6 福島（福島）

▽同準々決勝

古川工 20（9—3 11—4）7 鰺ヶ沢（青森）

盛岡一 16（6—3 10—3）6 仙台育英（宮城）

湯沢 22（13—4 9—7）11 聖光学院（福島）

▽同準決勝

古川工 10（4—4 3—3 : 1—0 2—2）9 盛岡商

湯沢 20（7—6 8—9 : 2—0 3—0）15 盛岡一

▽同決勝

湯沢 16（8—6 8—5）11 古川工

▽女子1回戦

和洋女（秋田）15（5—2 10—2）4 石川（福島）

青森西（青森）5（2—2 3—0）2 花巻南（岩手）

米沢女（山形）9（4—3 5—2）5 本宮（福島）

▽同準々決勝

和洋女 5（2—2 3—1）3 宮城二女（宮城）

青森西 8（3—4 5—2）6 竹田女（山形）

六郷（秋田）12（4—4 8—4）8 岩手女（岩手）

涌谷（宮城）11（7—2 4—1）3 米沢女

▽同準決勝

和洋女 10（6—3 4—2）5 青森西

涌谷 14（5—4 9—4）8 六郷

▽同決勝

和洋女 5（1—3 4—1）4 涌谷

○……男子のベストフォアは予想どおりの顔ぶれとなりともに白熱延長にもつれこんだが地力に優る湯沢、古川工の進出となった。決勝も接戦で予断を許さずわずかに前半優位に立った湯沢が押し切った。

女子は花巻南が1回戦で敗れる波乱の幕あけだったが和洋—涌谷の宿敵同士の決勝で、和洋が逆転を実らせた。

○……全体としてインター・ハイを前に戦術・技術面で得るところが大きく、秋からの移行は成功したといってよい。また両日とも一般の観客も多くこの面でも今後に楽しみを残した。（由利）

関東は中大附が逆転優勝

東海男子で松蔭に初栄冠

このほか関東男子では予想どおり中大附属—明星の東京同士の決勝から中大附属が12—10で逆転勝ち、女子は水海道二（茨城）が9年ぶりで勝った。

また、東海では男子が松蔭（愛知）の初優勝という波乱があり女子は静岡城北が久々にカムバックした。近畿は男子が枚方（大阪）、女子が大谷（大阪）。四国は男女とも愛媛勢で優勝を争い新居浜工と新居浜商が勝ち、九州は佐世保北（長崎）と佐世保商（長崎）の優勝。（いずれも詳報次号）

一九六九年ハンドボールナショナルチームに関する研究　第二報
—外国遠征下におけるコンディション—

強化対策委員
広田公一
北川勇喜
渡辺慶寿

海外遠征に際して、外国での生活環境に対する、適応が、いかにおこなわれるのか、プレーに、どのような形で、影響をしていくのかを調べることは、今後数多く、おこなわれる、外国遠征の収獲を大きくするために、欠くことが出来ないものである。もしこれ等が多少とも解明されれば、遠征前のトレーニング、あるいは、コンディション調整の目やすとすることが出来よう。

このような、ねらいで、我々は去る、昭和四十四年五月十七日、より、七月十四日までの約六十日間、ルーマニアを基点に、ヨーロッパの各地を転戦した、我がナショナルチームプレーヤーを対象として次のような、項目による調査を試み、その結果がまとまったので、ここに報告する。

① 自覚的症状I（日本産業衛生協会産業疲労委員会選）
② 自覚症状II
③ 全身疲労感
④ 睡眠
⑤ 基礎脈拍数
⑥ 体重
⑦ 食欲

一、自覚的症状　I

疲労の自覚的症状のあらわれ方には、二つの方向がある。すなわち、症労の程度が高まるにともなって、一つは、訴えの程度が重くなる方向であり、他の一つは、訴えの種類が多くなることである。

この調査は、その後者の傾向をもとにして、疲労の程度を知ろうとする方法である。

表Iはその自覚症状調査表であり、A項目は、身体的症状、(Body Symptom)、B項目は、精神的症状 (Mental Symptom) C項目は、神経感覚的症状 (Nerve Sensation Symptom) である。

この症状群の各10小項目について、毎日該当する箇所にチェックをさせ、各項目についてのチェック数を算出する。

図1は、以上の症状群について全遠征期間中の全選手の、平均値を表示したものである。

これによると、三箇所に大きな「山」がみられる。

第一の山は、日本を離陸して、数日間（六、七日）に出来ており、これを、各症状群について比較対照してみると、この時期の疲労の特徴は、身体的症状の頻度の増加に比較して、特に精神的症状群頻度の増加が著しく、神経感覚的症状群の頻度の増加もまた、著しいことである。

この原因については、いろいろ要素が含まれていてその解明は、困難であるが、気候風土の違い、時差の関係、生活習慣、食物等の違いから来る心配や不安が、大きく、気疲れとなって表われることが、大きな一つの原因として指摘できるであろう。山がおよそ一週間つづいていることから考えてこのような外国の環境条件に対して順応するためには、少なくとも一週間の日数を要するものとすることができ、今後の遠征において、この点に関して充分な配慮をおこなうことが必要であろう。

次に、この遠征の第二の山は、前期後半に現われており、これを分析してみると、前者とは、異なり、身体的疲労の濃度が、著しいことがみとめられた。この時期はタシマイダン杯大会を前にし、ルーマニアでの相当強度なトレーニングを荷しており、これが影響したものと考える。

第三の山は、遠征後期に現われている。前二者よりも、頻度が小さいが、疲労の訴えが漸増していく傾向がみとめられる。この徴候は、身体的訴えに最も強く、精神的な訴えにもやや強くあらわれている。このような現象は、一般に蓄積疲労（病的疲労）の初期に多くみとめられるものであるが、この場合には、遠征の後期であり、実際の疲労とは、別に遠征の終りに近くあらわれる行事の終りを期待することによるものかもしれない。しかし一応指摘し注目する必要があろう。

二、自覚症状　II

Iの自覚的症状調査のほかに、第二表に示されるような自覚症状についても調べてみた。各症状に該当するものについて毎日、起床時練習前、練習後、就寝時の四回について、調査したものである。起床時には、①肩こり、②はれぼったい、③筋肉痛、④のど、くちのかわき、練習前には、①肩こり、②筋肉痛、③脱力感、④頭痛、練習後には、①のど、くちのかわき②筋肉痛、③脱力感、④肩こり、就寝時には、①のど、くちのかわき、②肩こり　③筋肉痛　④脱力感、の順に訴えが多くなっていた。

三、睡眠

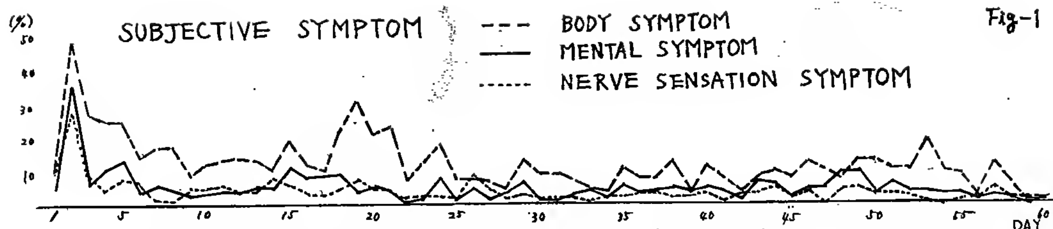
睡眠は疲労の指標として、あるいは、コンディション調整、健康対策などの指標としても、きわめて重要なものと考えてよい。

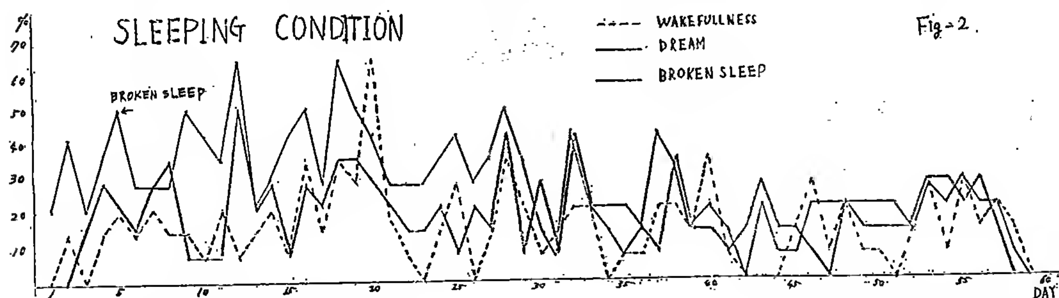
したがってここでは、睡眠時間及び睡眠の質的内容について調べた。睡眠の質的内容については、寝つきが悪い (Wakefullness) 夢をみた (Dream) 夜中に目覚めた (Broken Sleep) 眠りが浅い (Insufficient Sleep) 起床時の気分悪い、(Bad Feeling at Rising Time) の睡眠の状態 (Sleeping Condition)を調べた。

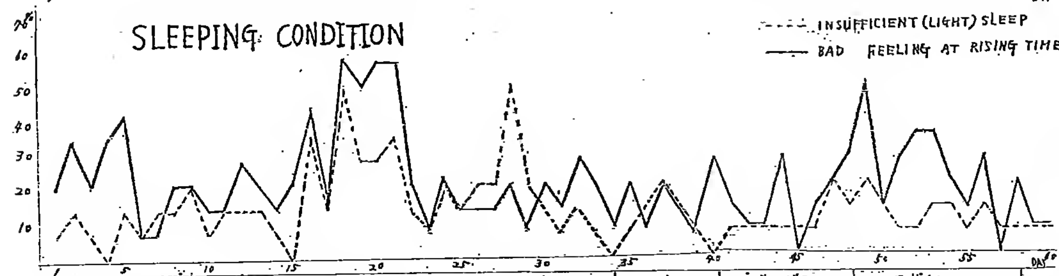
その結果は図IIの通りで、遠征前期、特にその後半に悪い傾向があらわれており、これは、Iの自覚的症状の第二の山と一致している。疲労の程度は、睡眠の良否をよく反映している。

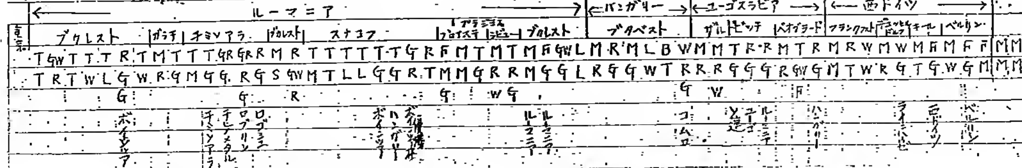
四、全身的疲労感

起床時、練習前後、就寝時の四回に亘っての全身疲労感について強い、普通、軽い、なし、の四種目について記入させ、その結果は









Iの自覚症状の成績と殆んど一致していることは、当然の結果である。しかしこれを細く検討してみると起床時の疲労感が最も高い。このことは、トレーニングの強度睡眠、栄養、精神面の諸要素が、関係しているものと考えられ、起床時に疲労の訴えが強く、練習前後、就寝時に訴えが弱いのは、疲労の蓄積のときにみられる一般的傾向である。

今後の遠征で、疲労が数日にわたって持越さず、快適でしかも効率の良い毎日を送るにはどうすべきか、日本チームにとって大きな課題として残された。

五、基礎脈拍数

基礎脈拍数（起床時直後の基礎代謝時における脈拍数）は身体的コンディションを比較的よく反映するものといわれている。

飛行機で、短時間でアメリカや欧州に移動した場合には、特に自律神経系の変調（交感神経と副交感神経とに時間的ずれが生ずる）があらわれるが、これが現地の時刻に適応するには、およそ二週―三週間を要するといわれている。したがって、運動能力等にも、かなりの変化が見られるものと考え今回の遠征でこの自律神経の適応について、基礎脈拍数を用いて調べてみた。

その結果、基礎脈拍数の動揺は遠征の初期に著しく、およそ十日（二週間）で恒常状態が得られ、適応には、少なくとも十日以上の日数が必要であることが解った。

六、食欲

食欲と食べたいものについて調べてみた。その結果食欲については前の調査等と同じ傾向がある。食べたいものについては、飲みたいもの、食べたいものを大別し、食べたいものを魚、肉、果物、野菜、塩からいもの、甘いものに分け、調べた。その結果、食べたいものとしては、果物、野菜類が多く、その要求が全員の八十％を越える日もあった。

今回の遠征の各地域に、新鮮な野菜類が少なかった、ための苦労が多かったようである。

以上、長期にわたる遠征下の身体的コンディションについて、自覚症状を中心に、簡単にまとめた。今後は、今回の調査成績を基礎にして、内容の充実した調査を実施し、外国遠征をして、最良、最大の効果を挙げるよう、側面からの援助を行ないたい。

最後に長期に亘りおしみなくこの調査に御協力いただいたナショナルチーム監督、村田弘氏、コーチ、勝繁雄氏をはじめ、選手諸氏そして調査準備の際に御協力をいただいた、大阪体育大学助教授石井喜八、東京大学学生、知原信行

君、又調査整理に長い時間ご協力下さいました実践女子学園教諭中野淑江氏らに心から感謝する。

Tab. 2　Ⅱ自覚症状（2）あてはまる欄に○印

	めまい	どうき	ふるえ	さむけ	耳なり	のぼせ感	発熱感	下肢冷感	脱力感	はれぼったい感	腹のはり	胸のしめつけ	頭痛	平衡不全	呼吸困なん	頭重	肩こり	腹痛	胸痛	関節痛	筋肉痛	背部痛	下痢	のどくちのかわき
起床時																								
練習前																								
〃　後																								
就寝時																								

Tab. 1　Ⅰ.自覚症状（1）

A	B	C
1) 頭が重い…………○	1) 頭がぼんやりする………………○ 頭がのぼせる……○	1) 目がつかれる……○ 目がちらちらする………………○ 目がぼんやりする………………○
2) 頭がいたい………○	2) 考えがまとまらない……………○ 考えるのがいやになる………○	2) 目がしぶい………○ 目がかわく………○
3) 全身がだるい……○	3) 1人でいたい……○ 話をするのがいやになる………○	3) 動作がぎごちなくなる…………○ 動作がまちがったりする………○
4) 体のどこかがだるい……………○ 体のどこかがいたい……………○ 体のどこかのすじがつる………○	4) いらいらする……○	4) 足もとがたよりない………○ ふらつく…………○
5) 肩がこる…………○	5) ねむくなる………○	5) あじがかわる……○ 臭いがはなにつく………………○
6) いき苦しい………○ むなぐるしい……○	6) 気がちる…………○	6) めまいがする……○
7) 足がだるい………○	7) 物事に熱心になれない…………○	7) まぶたやその他の筋がぴくぴくする…………○
8) つばが出ない……○ 口がねばる………○ 口がかわく………○	8) 一寸した事が思い出せない……○ どわすれする……○	8) 耳が遠くなる……○ 耳なりがする……○
9) あくびが出る……○	9) する事に自信がない……………○ する事にまちがいが多くなる………○	9) 手足がふるえる……………………○
10) ひや汗が出る……○	10) 物事が気にかかる………………○ 物事が心配になる………………○	10) きちんとしていられない………○

（日本産業衛生協会産業疲労委員会選）

編集部より

本誌76号25～27頁と今回の二回にわたって、広田公一、北川勇喜渡辺慶寿の三氏にナショナルチームの科学的研究の報告をまとめていただきました。

このような形の調査・研究は地味な仕事だけに、労力がかかり大変なことだと思います。

これらの資料をいかに使うか、ここがこれらの調査・研究を生かすも殺しもすることになり、大きな問題となりましょう。

これらの資料、ナショナルチームの海外遠征のために使わなければならないことはもちろんです。今回の世界選手権、国を挙げての総力戦だと云われています。

それはこういう形の科学的研究の成果をトレーニングの中、あるいは遠征日程の中にとり入れて考えることはもちろんですが、その他情報活動というようなこともこれに入りましょう。

これまでのハンドボール界はあまりにもこれらのことに無関心すぎました。こういった形の資料はただ一度でなく、多数積み重ねられて始めて、定説化できる内容をもってくるものと思われます。今後ともこういった形の調査がなされ、その成果が遠征に生かされることが必要でしょう。

これらの結論はナショナルチームだけでなく、国内の遠征に出かける際にも参考になりましょうし同様のことを各チーム・チームでやって見ることも可能でしょうし全国大会に出かける際にも参考になりましょう。

ハンドボールの歩み(第21回)

グンメルスバッハ,カウナス初優勝
(男子)　　(女子)

―1967年―

ヨーロッパカップ編 ⑪

ライプチッヒ・デュクラに敗れる

男子第8回大会

男子第8回大会は21チーム参加のもとに1966年から67年にかけて行なわれた。

予選には10チームが参加し、10試合が行なわれた。

▽予選

US・イーブリ・パリ(フランス) 22―19 25―8 SC・リスボン(ポルトガル)

シッタルディア・ゲレーン(オランダ) 25―15 21―5 CH・シャールベーク・ブラッセル(ベルギー)

VfL・グンメルスバッハ(西ドイツ) 30―15 19―20 IS・ゲールタ・ヘルジングボルグ(スウエーデン)

1勝1敗、得失点差49―35でVfLの勝ち。

メドベスカク・ザグレブ(ユーゴ) 21―5 16―11 ユニオン・ベスト・ウィーン(オーストリア)

フレデンスボルグ・SB・オスロ(ノールウエー) 27―19 19―24 グラノラース・バルセロナ(スペイン)

▽一回戦

デュクラ・プラーグ(チェコ) 28―13 33―9 HB・デュデリンゲ(ルクセンブルグ)

HG・コペンハーゲン(デンマーク) 20―14 20―16 US・イーブリ・パリ

VfL・グンメルスバッハ 30―10 29―20 シッタルディア・ゲレーン

ツルド・モスコー(ソ連) 30―17 25―14 U・K・ヘルシンキ(フィンランド)

DHfK・ライプチッヒ(東ドイツ) 27―10 20―13 グラスホッパーズ・チューリッヒ(スイス)

ホンブット・ブダペスト(ハンガリー) 20―13 14―19 FH・ハンフナールジエドール(イスラエル)

1勝1敗、得失点差34―32でブダペスト

メドベスカク・ザグレレブ 19―11 14―19 フレデンスボルグ・SB・オスロ

1勝1敗。33―30でメドベスカク・ザグレブ

ディナモ・ブカレスト(ルーマニア) 23―13 11―19 GKS・ヴィブルジエ・ダンチヒ(ポーランド)

1勝1敗、34―32でディナモ・ブカレスト

好試合の連続

▽準々決勝

デュクラ・プラーグ 21―10 9―14 DHfK・ライプチッヒ

1勝1敗・30―24でデュクラ

ツルド・モスコー 15―13 21―19 ホンベット・ブダペスト

ディナモ・ブカレスト 24―16 16―21 HG・コペンハーゲン

1勝1敗40―37でディナモ

VfL・グンメルスバッハ 19―10 9―13 メドベスカク・ザグレブ

1勝1敗、28―23でVfL

8試合とも好試合の連続であったが、2勝したツルド・モスコーを除き、ホームゲームを先勝した3チームが、1勝1敗ながら、ごく少数の得点差を利して、準決勝に駒を進めた。

デュクラ、ディナモをよせつけず

▽準決勝

デュクラ・プラーグ 10―7 15―10 ディナモ・ブカレスト

VfL・グンメルスバッハ 15―11 15―17 ツルド・モスコー

デュクラはディナモを寄せつけず、2勝をあげ、勝利を握った。この年は世界選手権では、チェコが優勝し、このヨーロッパカップでもひさしぶりにチェコに栄冠がいくかに思われた。

グンメルスバッハ地元の利を生かす

▽決勝(於ドルトムント)

VfL・グンメルスバッハ 17―13 デュクラ・プラーグ

決勝は従来パリで行なわれていたが、この年はドイツのドルトムントに於いて行なわれた。グンメルスバッハは多くの選手を国内外から集め、強化に専念したチームヨーロッパカップでも、初めはすっきりした勝ち方が少なく、快調にとばしていたデュクラのものであろうというのが一般的な見方であったが、決勝では、見事に地元の利を生かし、前半とられた主導権を後半見事にはねかえしドルトムントにつめかけた、ドイツのファンの声援に援けられながら、試合をすすめ、4点差をつけて快勝した。

前号にも触れたように、VfLはこの大会見事に勝ちはしたが、それには地元の利と東欧圏からの移籍選手に大いに援けられてのものであり、東欧圏の優位はまだ続くことになる。それは準決勝に残ったのがVfL・グンメルスバッハを除くといずれも東欧、ベストエイトにも、東欧は6を占めていることからも判ろう。

SC・ライプチッヒ連覇の夢破る

女子第7回大会

この大会、予選が行なわれていることは確実だが、手元に予選の資料がないので一回戦から記述に入ることにする。

ティミソアラ大(ルーマニア) 8―2 10―10 HG・コペンハーゲン(デンマーク)

シャルジリス・カウナス(ソ連) 7―8 11―8 スパルタク・ブダペスト(ハンガリー)

1勝1敗、18―16で、シャルジリス

ボヘミアンズ・プラーグ(チェコ) 7―6 5―6 バイエル・リバクーゼン(西ドイツ)

1勝1敗、得失点12―12、ボヘミアンズの抽せん勝

SC・ライプチッヒ(東ドイツ) 15―8 10―7 ポドラブカ・ザグレブ(ユーゴ)

ポドラブカはかつて来日の希望をもらしたことのあるチーム。ライプチッヒの強さがめだった試合であった。

SC・ライプチッヒ強し

▽準決勝

SC・ライプチッヒ 13―3 10―6 ボヘミアンズ・プラーグ

シャルジリス・カウナス 10―7 5―4 ティミソアラ大

ライプチッヒとカウナスの強さは群を抜いており、二試合ともまずは快勝のペース、なかでも、ライプチッヒの戦いぶりはめざましいものがあり、連覇は固いと思われていた。

▽決勝

シャルジリス・カウナス 8―7 SC・ライプチッヒ

結局決勝戦は前回1点に笑ったライプチッヒが1点に泣く結果となった。

試合は連覇が固いと見られていたライプチッヒがカウナスのペースにはまり、カウナスの初優勝をなさせることとなった。

カウナスは次回も優勝しているこの時の相手はやはり東ドイツのエンポール・ロストク、1969年の中止のあとを受けて、行なわれた本年の大会では、カウナスは準決勝で自国のスパルタク・キエフに破れ、決勝進出はならなかったが、そのキエフが決勝戦で降した相手が、またまた、東ドイツのSC・ライプチッヒとなるのだから、いささか因縁話めいてくる。

ここ三回の大会いずれも、ソ連と東ドイツのチームで決勝を争っているのはもっともな話である。近年、女子球界では、この両国が他に圧倒的な差をつけている。これに僅かにとどきそうなのがユーゴであるが、他の国とは数段のレベル差がついている。

68年に中止になった世界選手権も両者の争いというのがもっぱらの評判であったし、71年にもし行なわれれば、もちろん優勝候補の筆頭にはこの両国があげられることになろう。

女子 カウナス連覇
男子 ステアウア初優勝

1968年度

この年度の大会、つまり、男子9回、女子8回の大会記録は本誌50号57頁、52号15頁、53号20頁に掲載されているので詳しいことは省略する。記録の出ていないもののみとりあげよう。

▽男子予選

ホンベット・ブダペスト 34―18 20―18 ヘルシングボルグ

ディナモ・ベルリン 29―22 20―24 HG・コペンハーゲン

ディミトロフ・ソフィア 15―7 18―14 ESCAアーンハイム

パルチザンブジェロ 16―16 24―9 フラム・レイキャビク

グラノラスバルセロナ 20―7 26―25 ATV・バーゼル

▽準々決勝

ステアウア・ブカレスト 15―9 14―13 Vfグンメルスバッハ

ディナモ・ベルリン 29―17 30―22 OK・ヘルシンキ

ブジェロバール 36―13 24―16 グラノラスバルセロナ

デュクラ・プラーグ 24―10 21―19 フレデンスボルグ

女子の記録がかけているが、これは次回の総集編に掲載することにして、次回でヨーロッパカップ編を終了することにしたい。

(藤本 強)

第21回 全日本高校選手権 各県予選記録（下）

◎太字は代表校

北海道

▼道大会男子予選リーグA組
函館東 14—5 釧路工
室蘭清水 11—9 紋別北
函館東 15—7 室蘭清水
紋別北 6—5 釧路工
函館東 12—4 紋別北
室蘭清水 8—7 釧路工

▽同B組
北見工 18—7 札幌商
函館有斗 18—8 室蘭東
北見工 23—9 室蘭東
札幌商 8—0 函館有斗
北見工 14—6 函館有斗
室蘭東 17—11 札幌商

▽同決勝
函館東 11—9 北見工
函館東高は3年連続6度目の代表

▼女子予選リーグA組
登別 16—7 駒大岩見沢
函館女商 5—4 紋別北
登別 7—5 函館女商
紋別北 10—4 駒大岩見沢
紋別北 4—3 登別
函館女商 9—6 駒大岩見沢

▽同B組
室蘭商 27—0 紋別南
函館商 10—4 紋別南
室蘭商 9—4 函館商

▽同決勝
室蘭商 8—2 登別
室蘭商は7年連続7度目の代表

関東

▽……栃木県

▼男子1回戦（1試合）
宇都宮工 15—5 石橋

▽同準々決勝
国学院栃木 17—4 烏山
足利 8—6 足利工
宇都宮工 6—5 足利商
馬頭 35—3 矢板中央

▽同準決勝
国学院栃木 18—4 足利
馬頭 19—9 宇都宮工

▽同決勝
国学院栃木 22—12 馬頭
国学院栃木高は3年連続3度目の代表

▼女子1回戦（3試合）
足利商 不戦勝 矢板中央
足利女 8—6 小山城南
栃木女 9—6 国学院栃木

▽同準決勝
足利商 7—5 馬頭
栃木女 21—5 足利女

▽同決勝
栃木女 11—4 足利商
栃木女高は12年連続12度目の代表

▽……埼玉県

▼男子1回戦
大宮 18—6 春日部
川口工 30—7 浦和西
大宮北 31—7 菖蒲
朝霞 13—12 浦和南
草加 20—12 聖望

▽同準々決勝
坂戸 20—18 大宮
川口工 38—7 大宮北
浦和市立 18—6 朝霞
秩父 24—6 草加

▽同準決勝
浦和市立 27—6 秩父
坂戸 17—6 川口工

▽同決勝
浦和市立 13—8 坂戸
浦和市立高は2年ぶり8度目の代表

▼女子1回戦（1試合）
熊谷女 14—4 行田女

▽同準々決勝
浦和南 14—3 浦和市立
川口女 11—4 朝霞
熊谷商 14—5 聖望
深谷女 22—2 熊谷女

▽同準決勝
浦和南 7—2 熊谷商
深谷女 14—2 川口女

▽同決勝
深谷女 7—3 浦和南
深谷女高は5年連続6度目の代表

▽……神奈川県

▼男子1回戦（2試合）
川和 12—11 法政二
立野 17—3 横須賀工

▽同2回戦
川和 9—6 市川崎
相模台工 14—9 横浜商
少年工科校 16—9 多摩
三浦 19—7 松田
日野 13—10 武相
関東学院 16—8 法政工
向の岡工 16—12 東
横浜一商 32—4 生田
大和 26—5 平沼
磯子工 14—5 希望ケ丘

鎌倉学園 12（分）12 県立商工
抽せんで鎌倉学園高の勝ち
神奈川工 14—13 新城
横浜商工 18—8 大船技術
川崎工 16—10 慶応
南 17—6 翠嵐
桜ヶ丘 12—5 立野
▽同3回戦
相模台工 8—7 川和
少年工科校 9—6 三浦
関東学院 9—8 日野
横浜一商 15—6 向の岡工
大和 12—6 磯子工
鎌倉学園 11—10 神奈川工
川崎工 25—3 横浜商工
桜ヶ丘 13—8 南
▽同準々決勝
相模台工 19—6 少年工科校
横浜一商 15—8 関東学院
桜ヶ丘 17—7 川崎工
大和 29—8 鎌倉学園
▽同準決勝（代表決定戦）
横浜一商 18—6 相模台工
大和 9—8 桜ヶ丘
▽同決勝
横浜一商 16—14 大和
横浜一商高、大和高とも初出場
▼女子1回戦（2試合）
南 9—2 京浜女大横浜
上溝 12—9 東
▽同2回戦
北鎌倉 9—4 南
日野 10—3 横浜学園

平沼 8—3 立野
衛生短大付二俣川 9—3 大津
平塚江南 17—3 京浜
明倫 4—2 翠嵐
三浦 8—6 生田
川崎 8—3 上溝
▽同準々決勝
平塚江南 19—1 明倫
川崎 12—1 三浦
衛生短大付二俣川 13—1 平沼
北鎌倉 7—2 日野
▽同準決勝
北鎌倉 6—3 衛生短大付二俣川
平塚江南 12—3 川崎
▽同決勝
平塚江南 6—1 北鎌倉
平塚江南高は3年連続16度目の代表

▽……群馬県

▼男子1回戦（＝準々決勝）
富岡 30—8 甘楽農
前橋商 20—3 上武一
桐生工 16—2 太田工
前橋工 24—1 桐生
▽同準決勝
富岡 4—3 前橋商
前橋工 8—7 桐生工
▽同決勝
富岡 8—5 前橋工
富岡高は3年連続12度目の代表
▼女子1回戦（1試合）
高崎女 12—4 群女短大附属

▽同準決勝
高崎市女 16—3 高崎女
前橋市女 16—1 桐生女
▽同決勝
前橋市女 8—5 高崎市女
前橋市女高は2年連続6度目の代表

▽……茨城県

▼男子一回戦
土浦一 9—2 茨城
土浦工 13—7 波崎
下館一 16—5 常北
真壁 12—9 汐来
石岡商 11—9 江戸崎
▽同2回戦
麻生 20—13 土浦一
土浦工 14—4 水戸工
土浦三 12—12 鉾田一（抽せん勝）
石岡一 17—4 下館一
竜ヶ崎一 15—3 真壁
水戸一 19—4 勝田工
水海道 15—6 磯原
笠間 11—6 石岡商
▽同準決勝
土浦工 15—12 麻生
土浦三 10—8 石岡一
水戸一 12—12 竜ヶ崎（水戸一抽せん勝）
笠間 20—14 水海道
▽同準決勝
土浦工 18—14 土浦三
笠間 13—10 水戸一
▽同決勝
笠間 15—13 土浦工
笠間高は初出場
▼女子一回戦
水海道 19—4 石岡二
磯原 8—6 常北
汐来 不戦勝 波崎
鉾田 15—4 日立
八郷 10—3 笠間
石岡商 5—4 水戸
高萩 9—2 結城
麻生 17—7 大田
▽同準々決勝
水海道 22—14 汐来
鉾田 11—8 磯原
八郷 13—2 石岡商
麻生 18—5 高萩
▽同準決勝
麻生 7—6 八郷
水海道 8—3 鉾田
▽同決勝
水海道 13—4 麻生
水海道は2年ぶり14度目の代表

北信越

▽……長野県

▼男子決勝リーグ
屋代 18—3 佐久
坂城 14—5 上田
屋代 15—13 坂城
北佐久農 34—6 佐久
上田 7—6 北佐久農
上田 24—4 佐久
北佐久農 9（分）9 屋代
上田 10—9 屋代
北佐久農 11—8 坂城

坂　城 11（分）11 佐　久
【順位】①上田②北佐久農③屋代④坂城⑤佐久
上田高は2年ぶり8度目の代表

▼女子決勝リーグ
北佐久農 9－3 松本美須ケ丘
小諸商 25－4 上田城南
北諸商 21－8 佐　久
小佐久農 13－4 上田城南
松本美須ケ丘 6－5 佐　久
佐　久 8－6 北佐久農
小諸商 15－5 松本美須ケ丘
小諸商 21－8 北佐久農
佐　久 11－5 上田城南
松本美須ケ丘 13－5 上田城南
【順位】①小諸商②北佐久農③佐久④松本美須ケ丘⑤上田城南
小諸商は9年連続9度目の代表

▽……石川県

▼男子1回戦
県　工 9－4 小松工
金沢商 9－7 小　松
泉　丘 10－6 小松商
二　水 13－11 津　幡
羽　咋 12－11 松蔭工

▽同準々決勝
県　工 12－7 金沢市工
泉　丘 10－8 金沢商
星　稜 8－5 二　水
工大付 13－9 羽　咋

▽同準決勝
県　工 8－3 泉　丘
星　稜 11－9 工大付

▽同決勝
星　稜 14－11 県　工
星稜高は初出場

▼女子準々決勝（＝1回戦）
小松市女 12－7 松　任
小　松 7－4 星　稜
金沢商 12－2 津　幡
羽　咋 14－2 珠　洲

▽同準決勝
小松市女 11－4 小松商
羽　咋 7－6 金沢商

▽同決勝
小松市女 5－4 羽　咋
小松市女高は6年連続9度目の代表

東　海

▽……岐阜県

▼男子予選トーナメント1回戦（1試合）
大垣南 14－10 大垣農

▽同2回戦
岐　北 6－3 大垣南
岐阜西工 10－8 益　田
岐　山 17－4 大　垣
岐阜商 14－8 斐太実
不　破 21－7 大垣北
岐　南 15－7 岐　東
多治見北 8－5 東濃実
加　納 22－7 斐　太

▽同3回戦
岐阜西工 11－10 岐　北
岐　山 15－6 岐阜商
岐　南 10－5 不　破
加　納 19－4 多治見北

▽同決勝リーグ
岐　山 9－7 岐阜西工
加　納 12－3 岐阜南
岐阜南 11－8 岐阜西工
加　納 9－5 岐　山
加　納 16－7 岐阜西工
岐阜南 9－8 岐　山
【順位】①加納②岐阜南③岐山④岐阜西工
加納高は2年ぶり10度目の代表

▼女子予選トーナメント1回戦
加　納 7－0 大垣北
益　田 12－3 大垣農
本　巣 10－2 岐阜北
鶯　谷 7－0 斐　太
多治見北 5－2 羽島柳津
岐阜南 7－0 大垣農
岐阜商 10－5 養老女商
大垣南 棄権 東濃実

▽同2回戦
加　納 17－4 鶯　谷
益　田 15－3 岐阜南
本　巣 15－5 岐阜商
大垣南 11－1 多治見北

▽同決勝リーグ
大垣南 8－1 本　巣
益　田 9－4 加　納
大垣南 5（分）5 益　田
本　巣 7－3 加　納
大垣南 8－5 加　納
益　田 2（分）2 本　巣
【順位】①大垣南②益田③本巣④加納
大垣南高は3年ぶり10度目の代表

近　畿

▽……京都府

▼男子1回戦（2試合）
堀　川 13－9 桂
城　南 15－4 桃　山

▽同2回戦
乙　訓 27－9 西　京
嵯峨野 15－13 洛　東
日吉丘 13－6 同志社
平　安 27－12 堀　川
大　谷 13－10 洛　星
伏見工 14－13 洛　北
田辺工 9－8 鴨　沂
塔　南 11－6 城　南

▽同準々決勝
乙　訓 6－5 平　安
伏見工 7－6 日吉丘
嵯峨野 20－7 大　谷
塔　南 10－9 田辺工

▽同準決勝
嵯峨野 15－10 乙　訓
塔　南 8－7 伏見工

▽同決勝
塔　南 10－8 嵯峨野
塔南高は初出場

▼女子1回戦（3試合）
明徳商 13－0 桂

嵯峨野 6－5 洛東
西京商 6－5 鴨沂
▽同準々決勝
塔南 5－4 桃山
京都女 12－4 嵯峨野
明徳商 5－4 精華
西京商 7－4 乙訓
▽同準決勝
明徳商 7－2 塔南
京都女 4－3 西京商
▽同決勝
京都女 6－4 明徳商
京都女高は6年ぶり12度目の代表

▽……大阪府（つづき）

▼男子第2次予選勝者 北陽、豊中、都島工、天王寺、富田林、城東工、食品産業、佐野工
▽同第3次予選1回戦
枚方 16－9 北陽
鳳 21－17 豊中
都島工 17－12 三国ケ丘
八尾 13－8 天王寺
富田林 15－14 堺工
城東工 13－11 泉陽
寝屋川 21－12 食品産業
佐野工 16－8 生野
▽同2回戦
枚方 23－9 鳳
都島工 18－6 八尾
城東工 14－12 富田林
佐野工 20－16 寝屋川
▽同決勝リーグ
枚方 13－9 都島工
城東工 20－10 佐野工
枚方 16－5 佐野工
都島工 8－6 城東工
枚方 7（分）7 城東工
都島工 19－5 佐野工
【順位】①枚方②都島工③城東工④佐野工
枚方高は2年連続2度目、都島工は初出場。
▼女子第2次予選勝者住吉学園、豊中、寝屋川、三国ケ丘
▽同第3次予選（4試合）
大谷 14－4 住吉学園
豊中 9－7 鶴見
梅花 10－7 寝屋川
枚方 17－3 三国ケ丘
▽同決勝リーグ
大谷 13－2 豊中
梅花 6－4 枚方
大谷 4－1 枚方
豊中 7－3 梅花
大谷 11－0 梅花
枚方 7－4 豊中
【順位】大谷②枚方③豊中④梅花
大谷高は3年連続6度目、枚方高は初出場
（注）第1次予選は前号既報

中国

▽……山口県

▼男子1回戦（2試合）
下関工 16－11 防府商
下関一 30－4 坂上
▽同2回戦
岩国 9－8 下関工
徳山工 12－10 小野田工
早鞆 17－9 高水
下松工 10－7 山口
宇部工 7－5 徳山
下関西 27－11 岩国商
南陽工 15－3 野田学園
岩国工 11－3 下関一
▽同準々決勝
岩国 27－6 徳山工
下松工 20－11 早鞆
宇部工 12－8 下関西
岩国工 24－7 南陽工
▽同準決勝
下松工 10－9 岩国
岩国工 8－7 宇部工
▽同決勝
下松工 15－14 岩国工
下松工は2年連続2度目の代表
（注）下関中央工は推せん出場、3年連続8度目の代表
▼女子1回戦（3試合）
岩国 14－1 野田学園
徳山商 6－3 防府商
宇部女 20－1 坂上
▽同準々決勝
徳山 15－6 岩国
高水 16－9 徳山商
山口中央 10－6 岩国商
下関西 9－4 宇部女
▽同準決勝
徳山 11－5 高水
山口中央 5－3 下関西
▽同決勝
徳山 12－6 山口中央
徳山高は13年連続14度目の代表

▽……広島県

▼男子1回戦
松本商 17－8 城北
山陽 22－11 呉港
呉工 12－11 宮原
呉商 32－7 白木
▽同準々決勝
広 22－4 松本商
三津田 24－6 山陽
三原工 19－7 呉工
修道 8－4 呉商
▽同準決勝
広 10－9 三津田
修道 6－5 三原工
▽同決勝
広 8－6 修道
広高は2年ぶり3度目の代表
▼女子1回戦（＝準々決勝）
山陽女 13－0 戸手
呉商 9－3 賀茂
進徳 10－6 白木
広島一女商 11－1 豊栄
▽同準決勝
山陽女 14－0 呉商
広島一女商 14－3 進徳
▽同決勝
山陽女 6－3 広島一女商
山陽女高は2年ぶり9度目の代表

九州

▽……熊本県

▼男子1回戦（1試合）
九州学院 13－7 天草
▽同2回戦
マリスト 31－11 九州学院
熊本市商 33－1 熊本商
済々黌 19－2 天草農
水俣工 26－8 熊本二
水俣 24－9 鎮西
八代 20－17 御船
菊池農 19－15 熊本
熊本一工 31－9 天草工
▽同準々決勝
熊本市商 9－8 マリスト
済々黌 21－6 水俣工
水俣 26－15 八代
熊本一工 17－11 菊池農
▽同準決勝
熊本市商 10－5 済々黌
水俣 10－9 熊本一工
▽同決勝
熊本市商 9－8 水俣
熊本市商高は2年ぶり12度目の代表
▼女子1回戦
菊池農 12－7 鎮西
熊本女商 11－8 天草農
尚絅 13－3 水俣
鹿本商工 10－3 熊本商
熊本二 16－2 菊池女

△同準々決勝
熊本市立 14—3 菊池農
尚 絅 10—7 熊本女商
天 草 20—4 鹿本商工
九州女学院 18—11 熊本二
▽同準決勝
熊本市立 12—3 尚 絅
九州女学院 12—8 天 草
▽同決勝
熊本市立 16—13 九州女学院
熊本市立高は2年連続15度目の代表

▽……福岡県

▼男子1回戦
小倉工 11—9 東海五
田川工 10—7 筑紫中央
小倉西 15—13 明 善
香 椎 19—7 嘉穂農
泰 星 15—9 西田川
若 松 12—4 宗 像
久留米工 17—14 西 南
博多工 12—9 門 司
▽同準々決勝
小倉工 17—2 田川工
香 椎 22—7 小倉西
若 松 8—4 泰 星
博多工 16—6 久留米工
▽同準決勝
小倉工 11—7 香 椎
若 松 8—6 博多工
▽同決勝
小倉工 17—5 若 松
小倉工は2年ぶり5度目の代表
▼女子1回戦（1試合）
南 筑 7—5 室見丘
▽同準々決勝
筑紫女 17—1 南 筑
福岡女 9—5 信愛女
古 賀 12—11 福岡女商
明 善 14—0 筑紫中央
▽同準決勝
筑紫女 19—3 福岡女
明 善 9—3 古 賀
▽同決勝
筑紫女 8—3 明 善
筑紫女学園は2年連続2度目の代表

▽……沖縄（一部既報）

▼男子1回戦（1試合）
那 覇 21—4 北 農
▽同2回戦
小 禄 15—10 真和志
中部工 14—11 南 農
興 南 21—5 知 念
糸 満 24—12 沖 縄
八重山 25—17 豊見城
那覇商 16—7 首 里
沖縄工 18—8 浦 添
宮 古 5(分)5 那 覇
▽再試合
宮 古 10—9 那 覇
▽同準々決勝
中部工 13—10 小 禄
興 南 11—9 糸 満
沖縄工 14—8 八重山
那覇商 10—6 宮 古
▽同準決勝
興 南 22—3 中部工
沖縄工 18—15 那覇商
▽同決勝
興 南 14—6 沖縄工
興南高は5年ぶり2度目の代表
▼女子1回戦
那 覇 8—6 コ ザ
八重山 7—6 宮古農
浦 添 11—4 興 南
糸 満 7—4 真和志
知 念 18—4 沖 縄
那覇商 8—5 首 里
▽同準々決勝
八重山 6—2 那 覇
浦 添 16—6 豊見城
知 念 18—4 沖 縄
小 禄 18—3 那覇商
▽同準決勝
浦 添 10—4 八重山
小 禄 17—10 知 念
▽同決勝
小 禄 16—7 浦 添
小禄高は4年連続4度目の代表

【おことわり】記録未着の県を残していますが本号で打ち切ります。本誌としてはなるべく多くの記録を集録しておきたいと考えていますが残念ながら今年も報告をいただけない県が数多くありました。来年はぜひお送りいただきたいと思います。

【お詫び】前号記録のうち滋賀県女子の安山女は守山女高の誤りでしたので訂正いたします。

全日本選抜、今年も男女4チームで

日本協会は、今冬12月18日から20日まで東京体育館で開く第17回全日本選抜選手権を昨年につづき男女とも4チームのリーグ戦で行うことを決めた。

出場チームは9月に選考委員を決め10月末に推せんされる予定。オリンピック対策部、技術指導部から特別の要請がなければ、男子は全日本総合の上位4チーム、全日本学生、全日本実業団、全日本教職員、全日本高校の各チャンピオンチームと国体一般男子上位2チーム、同教員、同高校の各1位計12チームを、女子は教員の部を除く10チームをそれぞれ"選考対象"とすることが7月18日の常務理事会で申し合わされた。

第4回世界学生選手権

1971年4月にチェコで開催されると日本協会に世界学生スポーツ連盟から通知が来た。前向きに検討する予定にされている。

スウェーデン招待の日程(案)

日本協会は7月18日の常務理事会で来秋招くスウェーデン男子ナショナル（世界選手権6位）の日程（全7戦）について協議。原案を次のように決めた。今後各方面と打ち合せをし、最終的な案を10月までにはうち出す予定にしている。

▽第1戦 9月12日▽第2戦 15日▽第3戦 17日▽第4戦 19日▽第5戦 21日又は22日▽第6戦 24日▽第7戦 26日

竹野、鈴木両氏が渡欧

ミュンヘン・オリンピックのための国際ハンドボール連盟コーチシンポジウム（8月2日〜8日・ストックフォルム）とユーゴ・ハンドボールスクール（7月18日〜27日・ウマグ）に参加する日本協会オリンピック対策部竹野奉昭コーチと鈴木義男氏（田村紡監督・自費参加）は7月14日夜フランス航空機で出発した。8月11日帰国の予定。

平岡選手、東京教員クへ

オリンピック第一次候補・平岡秀雄選手はこのほど大崎電気を退社、東京暁星学園へ勤務することになったため、所属が東京教員ク（東京）に変わった。

訂 正

本誌前号次の各項を訂正いたします。

▽2頁 成均館大メンバーのうちFP奇選手をGK、GKの金(永)選手をFPのように報じましたが誤り
▽17頁3段目 強化指導部……は技術指導部の誤り
▽19頁1段目 上位クラスの日程は46年3月3日から7日までの誤り

日新製鋼呉が初優勝

各地の記録

第15回中国選手権（男子のみ）は鳥取県境港市小学校グランドに中国5県の代表15チームが参加して開かれた。

激戦の連続を経てベスト4には強味をみせた山口勢3チームと日新製鋼呉（広島）が勝ち進んだが攻守に安定した日新が準決勝で山口教員団、決勝では高校界で活躍した選手を要所に持つ田原外郎ク（山口）を巧みな試合運びでかわし快勝、宿願の中国タイトルを初めて掌中にした。広島代表の優勝は8年連続11度目。

▽1回戦

徳山球友会（山口） 14（6—10、8—2）12 岡山教員（岡山）

日本鋼管福山（広島） 37（24—3、13—2）5 米子高専（鳥取）

田原外郎ク（山口） 19（11—5、8—5）10 津山高専（岡山）

広島商大（広島） 25（18—5、7—4）9 米子ク（鳥取）

境港市役所（鳥取） 18（1—0、2—2：6—4、9—11）17 修道ク（広島）

山口県教員団（山口） 37（16—11、21—4）15 九州耐火煉瓦（岡山）

全島根（島根） 25（14—12、11—6）18 全倉敷（岡山）

▽準々決勝

徳山球友会 27（16—10、11—7）17 日本鋼管福山

田原外郎ク 19（8—12、11—4）16 広島商大

山口県教員団 17（6—6、11—8）14 境港市役所

日新製鋼呉（広島） 43（23—6、20—7）13 全島根

▽準決勝

田原外郎ク 10（3—7、7—2）9 徳山球友会

日新製鋼呉 24（12—7、12—7）14 山口県教員団

▽決勝

日新製鋼呉 19（8—4、11—6）10 田原外郎ク

【田原】得 GK 松本 0 FP 村岡 1 中川 0 稗田 1 吉村 3 田中 0 広井 0 皆本 0 桜井 0 梶山 2 平次 3

【日新】得 GK 中野 FP 田谷 0 中本 0 沖川 0 松上 5 村茂 1 吹岡 4 下田 6 正田 0 吉岡 0 三浦 3 川 0 三 0

（審・辻東）

19（0） 7MT （0）10

○……試合の焦点は若さにまさる日新か、田原クの巧さかにあったが日新は時間が経つにつれ得意の走りを活かして試合のペースを握り制勝した。

立ちあがり3—0とされた田原クは9分と10分梶山の連続ゴールで追いつめたが、日新は15分以後確実なシュートで加点、特に下茂の活躍が目立った。

後半も日新がたてつづけにゲット、20分17—10と開いて大勢が決した。田原クは持ち駒不足で疲れがみえ、日新の完勝だった。（青木）

一般男子で氷見ク勝つ

女子は小松が両部門優勝

第17回北陸3県総合競技大会ハンドボールは6月21日金沢市で4部門（リーグ戦）が行なわれた。

注目の一般は、男子が氷見ク（富山）と福井教員を主力にした全福井が引き分け、対金沢市役所（石川）戦の得失点差で氷見クの首位が決まった。女子は小松市女OG（石川）が混戦を巧く切り抜けた。

高校男子は全福井が単独二校を破り、女子は小松市女（石川）が富山女、全福井を降り切った。

▽一般男子

全福井 22（12—7、10—12）19 金沢市役所（石川）

氷見ク（富山） 26（17—5、9—7）12 金沢市役所（石川）

氷見ク 15（9—10、6—5）15 全福井

引き分け

【順位】①氷見ク②全福井③金沢市役所

▽一般女子

小松市女OG 8（4—3、4—4）7 全福井

小松市女OG 12（7—1、5—3）4 氷見ク

氷見ク 8（5—2、3—6）8 全福井

引き分け

【順位】①小松市女OG②全福井③氷見ク

▽高校男子

全福井 19（8—9、11—4）13 金沢両工（石川）

八尾（富山） 18（11—4、7—3）7 金沢市工

全福井 23（13—10、10—9）19 八尾

【順位】①全福井②八尾③金沢市工

▽高校女子

小松市女（石川） 7（4—2、3—4）6 全福井

小松市女 9（4—5、5—2）7 富山女（富山）

富山女 10（5—0、5—3）3 全福井

【順位】①小松市女②富山女③全福井

千代田印刷機製造勝つ

▼第17回千葉県春季総合選手権（6月・佐原高）＝男子のみ

▽準々決勝

千葉大 19—7 順天堂大

海上自衛隊下総 棄権 千葉教員

千代田印刷機製造 31—7 海上自衛隊第三術科

千葉工大 15—11 清水高

▽準決勝

海上自衛隊下総 18—7 千葉大

千代田印刷機製造 21—13 千葉工大

▽同決勝
千代田印刷機製造 21（12―4、9―5）9 海上自衛隊下総
▽敗者トーナメント決勝
住友千葉化学 17―15 千葉商大

ワクナガ薬品、順当勝ち

▼第13回大阪実業団リーグ（6月 大阪ガス体育館ほか）
ワクナガ薬品 31―3 日立マクセル
宗形製作所 30―10 美津濃
ワクナガ薬品 18―13 大山商会
宗形製作所 36―3 日立マクセル
大山商会 33―9 美津濃
美津濃 9（分）9 日立マクセル
宗形製作所 10―11 大山商会
ワクナガ薬品 21―4 美津濃
大山商会 18―10 日立マクセル
ワクナガ薬品 23―14 宗形製作所
大阪ガス 26―15 美津濃
大阪ガス 24―4 日立マクセル
大山商会 19―14 大阪ガス
宗形製作所 24―19 大阪ガス
ワクナガ薬品 37―15 大阪ガス
【順位】①ワクナガ薬品5戦全勝②宗形製作所4勝1敗③大山商会④大阪ガス⑤美津濃・日立マクセル

仙台大ら学生勢上位に

▼第14回宮城県総合選手権（6月 宮城二女）
▽男子準々決勝
仙台大 21―2 北陵会
育英高 14―13 古川高ＯＢ
東北学院大 19―9 学院大ＯＢ
東北大 18―7 宮城教育大
▽同準決勝
仙台大 31―17 育英高
東北大 18―9 東北学院大
▽同決勝
仙台大 20（11―9、9―8）17 東北大
▽女子決勝
涌谷高 4（2―1、2―1）2 宮城三女

高校は古川工と涌谷

▼宮城県高校総体ハンドボール（6月・電子工高）
▽男子決勝トーナメント1回戦
古川高 19―8 仙台一
育英 16―6 仙台商
古川 22―6 電子工
仙台三 11―9 仙台二
▽同準決勝
古川工 13―7 古川
育英 8―7 仙台三
▽同決勝
古川工 15（9―5、6―2）7 育英
▽女子決勝トーナメント1回戦（準決勝）
宮城二女 9―4 古川商
涌谷 6―3 古川女
▽同決勝
涌谷 5（2―0、3―2）2 宮城二女

女子で筑紫女が強味

▼福岡県高校大会（5月・小倉）
▽男子準々決勝
小倉工 23―6 東海第五
香椎 33―8 福岡工
筑紫中央 17―6 久留米工
博多工 24―6 西田川
▽同準決勝
小倉工 21―12 香椎
博多工 14―13 筑紫中央
▽同3位決定戦
香椎 15―9 筑紫中央
▽同決勝
小倉工 22（9―2、13―4）6 博多工
▽女子準々決勝
筑紫女 棄権 筑紫中央
古賀 16―2 南筑
室見丘 11―3 信愛女
明善 14―3 福岡女
▽同準決勝
筑紫女 16―6 古賀
明善 11―5 室見丘
▽同3位決定戦
古賀 5―3 室見丘
▽同決勝
筑紫女 9（4―1、5―0）1 明善

麻生、笠間に辛勝

▼茨城県高校大会（6月・石岡）
▽男子準々決勝
笠間 13―9 水戸一
石岡一 8―7 江戸崎
麻生 16―7 石岡商
竜ヶ崎 9―8 鉾田一
▽同準決勝
笠間 11（分）11 石岡一
抽せんで笠間高の勝ち
麻生 8―2 竜ヶ崎
▽同3位決定戦
竜ヶ崎 12―8 石岡一
▽同決勝
麻生 15（7―5、6―8、……、0―1、2―0）14 笠間
▽女子準々決勝
水海道 21―3 礎原
八郷 10―4 笠間
鉾田二 13―4 水戸二
麻生 5―4 石岡商
▽同準決勝
水海道 12―3 八郷
麻生 8―7 鉾田二
▽同3位決定戦
八郷 7―5 鉾田二
▽同決勝
水海道 17（6―2、11―2）4 麻生

長崎理事長に青井氏

長崎協会はこのほど新役員を次のように決めた。
▽会長 田中丸善一郎▽副会長 和田旬功、松村守▽理事長 青井正弘▽副理事長 今村豊嗣▽常務理事 浦力、原田国男、石井通義、宮崎和幸、大宮泉、福田政弘、川島満州男

編集後記

・いよいよハンドボール界最大のシーズンを迎えました。
・和歌山県打田町、滋賀県彦根市、三重県四日市市で熱戦がくり拡げられることになりましょう。

毎年、熱戦が争われ、勝者、敗者がでます。勝者は喜び、敗者は泣きする光景が見られます。

今号は日韓大学交流を中心として、編集しました。それにインターハイ予選記録を特集しました。たった1行しかない記録ですが、この1行のなかには、1チームの喜びと口惜涙が含まれているのです。1行の記録の中には多くのドラマが含まれています。ある人にとっては一生忘れることのない感動の場面になったことでしょう。

去年も今年も来年も多くのドラマをこの記録の中に残しましたし残していきたいと思います。

願わくは、各都道府県の記録を担当していらっしゃる方々どうかこういった意味あいをこめて、ぜひ寄稿していただきたいと思います。青年時代の良き思い出を1行の記録のなかに盛りこんでおきたいと思います。これらも努力しますぜひ御協力を（TSF）

合繊糸・合繊混紡糸



田村紡績株式会社

社長 田 村 正 衛

四日市市東茂福町10—17
TEL 四日市 6—2156 (代表)
郵便番号 512

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第七十八号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十五年七月二十五日印刷
昭和四十五年八月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代表(467)三一一一
(東京五八三四八番)
編集兼発行人 保坂周助
定価百五十円
(年間購読11回・千二百円)